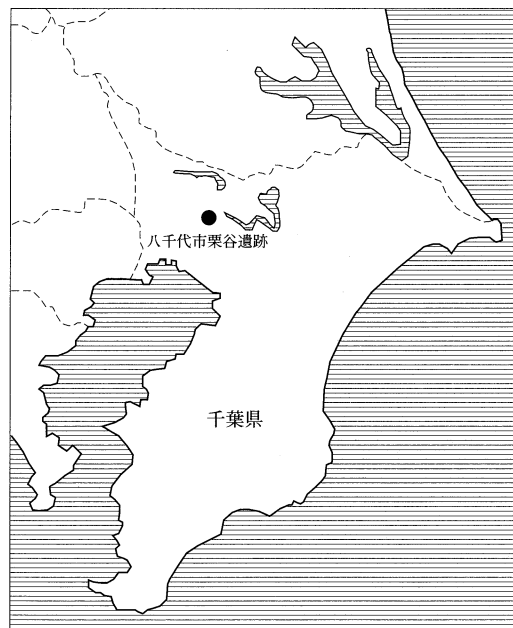


千葉県八千代市

栗谷遺跡

(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

— 第1分冊 本文編 —



2004

大成建設株式会社

八千代市遺跡調査会

例 言

1. 本書は、『千葉県八千代市栗谷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』である。
2. 栗谷遺跡を3つの地区に分割し、各地区ごとに報告する予定である。報告書は、栗谷遺跡で3分冊となる予定である。
3. 本書は、栗谷遺跡全3分冊のうちの第1分冊の本文編である。本書で報告する地区は、栗谷遺跡のⅠ地区である。
4. 栗谷遺跡は、千葉県八千代市保品字中台谷1909-1外に所在する。
5. 栗谷遺跡の発掘調査及び整理作業は、大成建設株式会社の委託により、千葉県教育委員会・八千代市教育委員会の指導のもと、八千代市遺跡調査会が実施した。
6. 整理作業及び報告書刊行作業は、宮澤久史・朝比奈竹男が担当し、平成14年11月1日～平成15年8月31日までの期間実施した。
7. 本書の執筆・編集は宮澤久史が行った。
8. 本書の図版作成及び編集・レイアウト作業は、一部を除き、DTP(Desktop Publishing=コンピュータによる版下作成)システムによるデジタル化を図り、伊勢田めぐみ（株式会社東京航業研究所）が担当した。
9. 発掘調査における遺構図・全測図・地形図の作成は、要航業株式会社・株式会社東京航業研究所が行った。
10. 整理作業及び報告書刊行作業におけるDTPシステムによるデジタル化作業全般において、株式会社東京航業研究所の協力を得た。
11. 発掘調査に伴う出土品及び図面・写真等の記録類は、八千代市教育委員会が保管している。
12. 出土文字資料の判読・解説については、国立歴史民俗博物館平川南教授にご教授いただいた。
13. 発掘調査から本書の刊行に至るまで下記の機関及び諸氏をはじめとする多くの方々からご指導、ご協力を賜りました。記して感謝の意を表します。（五十音順・敬称略）千葉県教育庁文化財課・（財）印旛郡市文化財センター・（財）千葉県文化財センター・（財）千葉市教育振興財団埋蔵文化財センター・八千代市教育委員会・八千代市郷土博物館
青沼道文・阿部寿彦・安藤広道・大沢孝・小川和博・小笠原永隆・小倉淳一・柿沼修平・川端弘士・菊池健一・黒沢浩・郷堀英司・佐藤順一・関口達彦・田形孝一・高花宏行・田川良・田中英世・中村俊夫・平川南・深谷昇・藤岡孝司・峰村篤・村松篤・山岸良二

目次

例言

表目次

挿図目次

第1章 本書の概要	1
第1節 縄文時代	2
第2節 弥生時代	13
第3節 古墳時代	26
第4節 奈良・平安時代	33
第5節 中近世以降及び時期不明	44
第2章 時代別全遺構配置図	45

表目次

表1 栗谷遺跡 I 時代別新旧対照表	1
表2 A011遺物観察表	2
表3 A015遺物観察表	4
表4 A038遺物観察表	4
表5 D011遺物観察表	6
表6 D014遺物観察表	6
表7 D016遺物観察表	7
表8 D028遺物観察表	8
表9 F021遺物観察表	12
表10 A013遺物観察表	13
表11 A016遺物観察表	13
表12 A017遺物観察表	14
表13 A018遺物観察表	16
表14 A020遺物観察表	16
表15 A023遺物観察表	17
表16 A029遺物観察表	18
表17 A030遺物観察表	18
表18 A031遺物観察表	19
表19 A033遺物観察表	19
表20 A035遺物観察表	20
表21 A036遺物観察表	20
表22 A043遺物観察表	20
表23 A045遺物観察表	21
表24 A046遺物観察表	21
表25 A047遺物観察表	22

表26 C001遺物観察表	23
表27 D006遺物観察表	24
表28 A001遺物観察表	26
表29 A002遺物観察表	27
表30 A003遺物観察表	27
表31 A004遺物観察表	28
表32 A005ab遺物観察表	29
表33 A006ab遺物観察表	29
表34 A007遺物観察表	30
表35 A008遺物観察表	30
表36 A009遺物観察表	31
表37 A032遺物観察表	31
表38 A037遺物観察表	32
表39 A010遺物観察表	33
表40 A012遺物観察表	33
表41 A014遺物観察表	34
表42 A021遺物観察表	35
表43 A022遺物観察表	35
表44 A024遺物観察表	35
表45 A025遺物観察表	36
表46 A026遺物観察表	36
表47 A027遺物観察表	37
表48 A034遺物観察表	37
表49 A039遺物観察表	38
表50 A040遺物観察表	38
表51 A041遺物観察表	39
表52 A042遺物観察表	40
表53 A044遺物観察表	42

挿図目次

図1 縄文時代遺構配置図	45
図2 弥生時代中期遺構配置図	47
図3 弥生時代後期遺構配置図	49
図4 古墳時代前期遺構配置図	51
図5 古墳時代中期遺構配置図	53
図6 古墳時代後期遺構配置図	55
図7 奈良・平安時代遺構配置図	57

報告書抄録

第1章 本書の概要

栗谷遺跡第1分冊においては、諸般の事情により、遺構の土層説明及び遺物観察表を掲載する事ができなかった。それらの補足は、第2分冊の小結及び第3分冊の考察において、必要に応じて行ってきたが、ここで改めて、第1分冊の本文編という形で掲載すると共に全3分冊を通した時代別遺構配置図を掲載したい。まず、第1章において第1分冊掲載の遺構番号について新旧対照表を時代別に再掲載し、各遺構ごとの概要を土層観察を含め簡単に触れ遺物観察表を掲載する。そして第2章において全3分冊を通した時代別遺構配置図を掲載する。

表1 栗谷遺跡I時代別新旧対照表

新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号
縄文時代		弥生時代		古墳時代		奈良・平安時代		中世以降および時期不明	
竪穴住居跡		竪穴住居跡		竪穴住居跡		竪穴住居跡		土坑	
A011	28-029	A013	27-002a	A001	28-001	A010	28-012	D026	25-042
A015	27-002C	A016	27-003	A002	28-002	A012	27-001	D027	25-043
A038	26-016	A017	27-004	A003	28-003	A014	27-002b	D029	19-004
土坑		A018	27-005	A004	28-004	A019	27-006	D003	28-026
D007	27-018	A020	27-007	A005ab	28-005ab	A021	27-008	溝	
D008	27-019	A023	27-011	A006ab	28-006ab	A022	27-009	E001	28-015
D009	27-022	A029	26-006	A007	28-007	A024	27-013		
D011	26-018	A030	26-007	A008	28-008	A025	26-001		
D014	25-005b	A031	26-008	A009	28-009	A026	26-002		
D016	25-030	A033	26-011	A028	26-005	A027	26-003		
D018	25-034	A035	26-013	A032	26-009	A034	26-012		
D019	25-035	A036	26-014	A037	26-015	A039	25-005a		
D023	25-039	A043	25-012			A040	25-008		
D028	19-003	A045	25-014			A041	25-010		
D031	19-006	A046	25-015			A042	25-011		
D032	19-007	A047	25-016			A044	25-013		
D033	19-008	方形周溝墓				掘立柱建物跡			
炉穴		C001	28-014			B001	25-018		
F001	28-017	C002	27-015			土坑			
F002	28-018	C003	25-019			D001	28-021		
F003	28-019	土坑				D004	28-027		
F004	28-020	D002	28-025			D012	26-019		
F005	28-022	D005	28-028			D015	25-007		
F006	28-023	D006	27-017			D017	25-033		
F007	28-024	D010	26-017			D020	25-036		
F008	27-020	D013	26-020			D024	25-040		
F009	27-021	D021	25-037			D025	25-041		
F010	27-023	D022	25-038						
F011	27-024	D030	19-005						
F012	27-025								
F013	25-021								
F014	25-022								
F015	25-024								
F016	25-026								
F017	25-028								
F018	25-029								
F019	25-031								
F020	25-032								
F021	19-001								
F022	19-002								

第1節 縄文時代

竪穴住居跡

A011

検出地区 G5-35G

時期 加曾利E期

覆土 色調を基本に8層に分層。上層にて若干の焼土を検出。人為的な埋戻しが想定される。
遺物出土状況 覆土中層から上層にかけて、土器片を中心に多量に出土。床面直上から石皿出土。実測図には掲載していないが、黒曜石のフレイクが出土。

燃焼施設 掘り込みの深いピット状の地床炉。

表2 A011遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	打製 石斧	分銅型 刃部は欠損 7.9×3.3×1.2 重量77g				
2	石器 石鏃	2.5×1.6×0.4 重量1.2g				
3	縦型 石匙	3.7×0.8×0.3				
4	縄文 土製 円盤	-×-×- 外面 ナデ? 内面 器面荒	暗赤褐 普	砂粒・ 雲母・ 赤色多		
5	縄文 土製 円盤	-×-×- 外面 垂下する沈線による区画内にRL縄文 内面 器面ヒビ割れ	暗赤褐 軟	砂粒多		
6	縄文 土製 円盤	-×-×- 外面 沈線による区画内に撚糸文施文 内面 スス付着 ヒビ割れ有	暗赤褐 軟	砂粒少		
7	縄文 土製 円盤	-×-×- 外面 RL縄文?	明黄褐 軟	砂粒多		内外面とも磨耗
8	縄文	-×-×- 外面 縦位の沈線文 内面 ヘラによるケズリのちミガキ	暗橙褐 普	粗 砂粒・ 小石多	胴部片	
9	縄文 耳飾り	-×-×- 外面 RL縄文 土器片の転用?	暗褐 普	砂粒多	1/4	
10	縄文	-×-×- 外面 ヘラケズリ後一部ヘラミガキ+ナデ 内面 ヘラケズリ	明褐 硬	砂粒多	底部片	
11	石器 磨石	1/2欠 縁辺部の消耗が著しく縁辺部に稜線をつくる				
12	石器 石皿	2/3以上を欠くが片面に良好な削痕があり凹んでいる				
13	石器 磨石?	一部のみ残存 自然面には熱を受けた痕跡あり				

14	縄文	-X-X- 外面 沈線による楕円状の区画文(内にRL縄文)と鈎針状のモチーフが、 円形列点文を間に挟み上下に施文される 内面 ナデ	暗橙褐 軟	砂粒少	胴部片	
15	縄文	-X-X- 外面 垂下する沈線の区画内にRL縄文施文 内面 ナデのミガキ	暗褐 硬	砂粒多	胴部片	
16	縄文	-X-X- RL-LR 縄文による羽状縄文を施文	暗褐 軟	砂粒多	口縁 部片	口唇部内削ぎ状
17	縄文	-X-X- 口唇ナデ調整 口縁下に粘土ひもを貼り付け、区画内にRL縄文を施文 内面はミガキを施す	明褐 普	砂粒多	口縁 部片	
18	縄文	-X-X- 外面 縦位の条線文 内面 ミガキ	暗褐 普	砂粒多	胴部片	外面スス附着
19	縄文	-X-X- 外面 垂下する沈線と楕円状の上下2つの沈線区画がされる 区画内はRL縄文 内面 磨耗	暗橙褐 軟	砂粒多	胴部片	
20	縄文	-X-X- 外面 無文帯下櫛状工具による条線文 内面 ヘラケズリ後ミガキ	暗褐 硬	砂粒多	口縁 部片	口縁 内湾
21	縄文	-X-X- 外面 口縁下より両側を沈線になぞられた微隆線が施される。上の微隆 線にはRL縄文を施文 内面 ヘラケズリ	暗赤褐	砂粒多	口縁 部片	
22	縄文	-X-X- 外面 渦巻状の隆帯文内にRL縄文施文 内面 ヘラミガキ	暗赤褐 普	砂粒多	口縁 部片	
23	縄文	-X-X- 外面 口縁下に1条の沈線をめぐらし、その下に沈線による楕円形の区 画を横位に施文(区画内RL縄文) 横位の楕円区画下には縦長の楕円状 区画及び縦位の沈線が施される 内面 ミガキ	暗褐 軟	砂粒多	口縁 部片	口縁 波状を呈 する
24	縄文	-X-X- 口唇部 平坦面を作出 外面 地文無節のRL口縁下を1条の沈線がめぐり、2条の沈線により 四角状の磨消?区画がされる 内面 ヘラケズリ	暗褐 普	砂粒多	口縁 部片	端部 外傾する
25	縄文	-X-X- 外面 地文RL縄文脇を沈線によりなぞられた隆帯により楕円状の区画 を施される 内面 ヘラによるケズリ後ミガキ	暗褐 軟	砂粒多	口縁 部片	
26	縄文	-X-X- 外面 沈線による縦位の区画がされる。地文はRL縄文 内面 器面スス附着 ヒビ割れ	暗赤褐 軟	砂粒多	胴部片	
27	縄文	-X-X- 外面 波状及び斜めの条線文 内面 ヘラによるケズリ後ミガキ	暗褐 普	砂粒・ 白色多	胴部片	
28	縄文	-X-X- 外面 口縁の無紋帯下に浅い沈線を1条めぐらす。沈線下は縦位の条線 文 内面 ヘラによるケズリとミガキ	暗褐 硬	砂粒多	口縁 部片	口縁 肥厚
29	縄文	-X-X- 外面 ハケ(?)状工具による幾何学状文様が施文される	明褐 普	繊維含	口縁 部片	
30	縄文	-X-X- 外面 地文LR縄文 口縁下-横位に幅広の沈線と曲線的な隆帯文が施 される 内面 ヘラケズリ	暗赤褐 普	砂粒多	口縁 部片	
31	縄文	-X-X- 外面 無文帯下、櫛状工具による縦位の条線文 内面 ヘラミガキ	暗赤褐 硬	砂粒多	口縁 部片	口縁 内湾

32	縄文	—×—×— 外面 両側を沈線になぞられた隆線により、楕円状の区画を施す 区画内RL縄文 内面 ヘラによるケズリ後ミガキ	暗赤褐 硬	砂粒多	口縁 部片	
33	縄文	—×—×— 外面 口縁下に沈線が1条巡る RL縄文 内面 ヘラケズリ後ミガキ	暗褐 普	砂粒多	口縁 部片	内外面スス付着
34	縄文	—×—×— 外面 垂下する沈線による区画内にLR縄文 内面 ヘラミガキ	暗褐 普	砂粒多		
35	縄文	—×—×— 外面 口縁部—無文帯下に櫛歯状工具による条線文施文 内面 ヘラケズリ後ミガキ	暗褐 普	砂粒多	口縁 部片	
36	縄文	—×—×— 外面 垂下する沈線区画内に無節L縄文を施文 内面 ミガキ	暗褐 普	砂粒多	胴下 部	

A015

検出地区 H5-21G

時期 加曽利E期

覆土 色調を基本に4層に分層。暗褐色系の覆土が主体となる。自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて、土器片を中心に小破片が比較的多量に出土。床面直上から石皿出土。

燃焼施設 地床炉でA014に一部壊される。

表3 A015遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文 深鉢	32.8×—×22.5 外面 櫛状工具による条線文	明黄褐 普	砂粒	2/3 口縁 胴部	

A038

検出地区 H5-54G

時期 加曽利E期

覆土 色調を基本に3層に分層。暗褐色系の覆土が主体となる。自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土下層にかけて、土器片が少量出土。

燃焼施設 掘り込みのしっかりした地床炉。

表4 A038遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文	—×—×— 外面 地文RL縄文 沈線による区画 垂下する	暗褐 普	砂粒多	胴部片	
2	縄文	—×—×— 外面 RL縄文施文 器面磨耗	明黄褐 軟	砂粒多	口縁 部片	

3	縄文	-×-×- 外面 地文RL縄文 隆帯文による区画 内面 ヘラによるケズリ	暗褐 軟	粗 砂粒多	胴部片	
4	縄文	-×-×- 外面 地文RL縄文 曲線状に隆帯文が施される 内面 ヘラによるケズリとミガキ	暗褐 普	砂粒	口縁 部片	
5	縄文	-×-×- 外面 口縁下にそって幅広の沈線 RL縄文を地文とする 口縁-肥厚	暗褐 普	砂粒多	口縁 部片	
6	縄文	-×-×- 外面 LR縄文	暗褐 軟	砂粒	胴部片	
7	縄文	-×-×- 外面 無節R	暗赤褐 普	砂粒少	胴部片	

土 坑

D007

検出地区 G5-38G

遺 構 不整形の土坑で掘り込みは浅いものの、しっかりとした土坑である。底部はほぼ平坦で、壁は斜めに直線的に立ち上がる。

覆 土 色調を基本に4層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 出土していない。

D008

検出地区 G5-39G

遺 構 不整楕円形の土坑でしっかりとした掘り込みを持つ。底部は丸底で斜めに直線的に立ち上がっていく。

覆 土 色調を基本に7層に分層。全体にロームを多く含み、人為的堆積が想定される。

遺物出土状況 出土していない。

D009

検出地区 H4-91G

遺 構 不整長楕円形の土坑で浅いがしっかりとした掘り込みを持つ。底部は若干傾斜しているものの、ほぼ平坦。壁は急傾斜で立ち上がっていく。

覆 土 色調を基本に3層に分層。暗褐色系の覆土が主体となる。自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 出土していない。

D011

検出地区 H5-45G

時 期 加曾利E期

遺 構 不整形の土坑で、しっかりとした掘り込みを持つ。底部はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

覆 土 色調を基本に5層に分層。最上層は焼土層で、以下の層にもロームを多く含み、人為的堆積が想定される。

遺物出土状況 床面直上からの出土は少ないが、覆土中層～上層にかけて小破片が比較的多く出土している。

表5 D011遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文	—×—×— 外面 無節Rを地文とし、隆帯による弧状を呈すると思われる区画がされる 内面 ヘラケズリ	暗赤褐 硬	白色	胴部片	
2	縄文	—×—×— 外面 口縁下にそった隆帯と渦巻状を呈すると思われる隆帯文により区画される 口縁下の隆帯文状にLR縄文 内面 ヘラケズリ	明橙褐 硬	砂粒多	口縁片	
3	縄文	—×—×— 外面 地文RL縄文 口縁下より四角状の沈線区画。垂下する沈線にそって隆帯文をもつ 口縁—肥厚	暗赤褐	粗 砂粒・ 小石多	口縁片	
4	縄文	—×—×— 外面 地文RL縄文 口縁下から斜めに垂下する沈線文と隆帯文によって区画される 内面 ヘラケズリ 口縁—肥厚	暗褐 硬	粗 砂粒多	口縁片	
5	縄文	—×—×— 外面 地文RL縄文 隆帯文と沈線による楕円状の区画をもつ 内面 ヘラによるケズリ	暗赤褐	小石多	口縁片	
6	縄文	—×—×— 外面 隆帯文による渦巻状の区画 RL縄文地文 内面 ヘラによるケズリ	明黄褐 軟	砂粒多	胴部片	外面スス付着
7	縄文	—×—×— 外面 地文RL縄文 口縁下の隆帯文上にRL縄文施文隆帯文とその脇をなぞる 沈線による曲線を描く区画がされる 内面 ヘラケズリ 口縁—波状口縁	明黄褐 軟	砂粒多	口縁片	
8	縄文	—×—×— 外面 地文RL縄文 隆帯による懸垂文 内面 ヘラケズリ 器面磨耗	明黄褐 軟	粗 砂粒多	胴部片	
9	縄文	—×—×— 外面 2条の隆帯文による楕円状の区画 区画内にRL縄文施文 内面 ヘラケズリ	明黄褐 軟	粗 砂粒多	胴部片	
10	縄文	—×—×— 外面 曲線的な隆帯文により区画 区画内RL縄文 内面 ナデ	明橙褐 軟	粗 砂粒少	胴部片	
11	縄文	—×—×— 外面 口縁下に無文帯をもち、その下に1条の沈線を巡らす。 沈線下はRL縄文を横位・縦位に施文 内面 ヘラによるケズリ、ミガキ 口縁—内湾 口唇部—内削ぎ状	暗黄褐 普	密 砂粒 白色多	口縁片	

D014

検出地区 H6-60G

時期 堀之内期

遺構 円形の土坑と推定されるが、A039に切られているため不明。底部はほぼ平坦で、壁は内湾ぎみにゆるやかに立ち上がる。

遺物出土状況 浅く小規模な土坑のわりには、比較的多く出土。

表6 D014遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文 深鉢	37.8×9.00×32.4 口縁—波状 波頂部に小突起。単位は不明。口縁部には円形沈刻文を囲むように1条の沈線が巡る 胴部—2条の沈線により曲線的な文様が施される。地文はLR縄文。胴下半より底部にかけて横～縦位のケズリやナデが加えられる。網代痕は見られない	暗赤褐 普	石英・ 褐色少	口縁・ 胴部片	

2	縄文 深鉢	-×-×- 外面 口縁下に1条の沈線を巡らし、以下RL縄文施文 内面 ヘラケズリ	明黄褐軟		口縁 部片	
3	縄文 深鉢	-×-×- 外面 平行沈線による区画文様が施される	暗褐 軟	粗	胴部 破片	
4	縄文 深鉢	-×-×- 外面 口縁下に1条の沈線 LR縄文を地文とし、沈線による区画文 が施文される 内面 ヘラケズリにナデ	暗褐 普	砂粒・ 石英・ 褐色少	口縁部 破片	
5	縄文 深鉢	-×-×- 外面 LR縄文を地文とし、平行沈線による三角状及び細長い区画文 が加えられる 内面 ヘラケズリ	暗褐 軟	砂粒・ 黒雲母 多	胴部 破片	
6	縄文 深鉢	-×-×- 外面 上半RL縄文? 下半-ヘラミガキ 内面 ナデ?	暗赤褐 軟	砂粒多	胴部 破片	

D016

検出地区 H6-17G

時期 称名寺期

遺構 楕円形の土坑で、しっかりとした掘り込みを持ち、2基の土坑が重なり合ったような形状を呈する。底部はほぼ平坦で、壁は斜めに直線的に立ち上がる。

覆土 色調を基本に2層に分層。1層で若干の焼土を検出するが自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 覆土上層のわずかな焼土を検出した付近で、数点出土している。

表7 D016遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文 深鉢	-×推定(8.60)×残存(2.20)	明橙褐 普	粗 砂粒多	底部片	
2	縄文 深鉢	推定(31.0)×-×残存(21.5) 外面 縦位のヘラミガキののち沈線による区画文を施す 内面 全面的に丁寧なミガキを施す	暗褐 硬	普 白色 砂粒微	口縁～ 胴部片	沈線文

D018

検出地区 J5-93G

遺構 楕円形の土坑で深い。底部はほぼ平坦で、急傾斜で立ち上がる。陥穴か?

覆土 色調を基本に9層に分層。概ね自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 出土していない。

D019

検出地区 I5-60G

遺構 楕円形の土坑で、深い掘り込みを持つ。底部はほぼ平坦で平面形は、ほぼ垂直に立ち上がる。陥穴。

覆土 色調を基本に10層に分層。概ね自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 出土していない。

D023

検出地区 I6-85G

遺構 不整形の土坑で、しっかりとした掘り込みを持つ。底部は若干の凹凸があるものの、ほぼ平坦。壁は斜めに立ち上がる。陥穴。

覆土 色調を基本に8層に分層。各層ともロームを含み人為的な堆積が想定される。

D028

検出地区 K5-34G

遺構 長方形の土坑で深い。底部は、ほぼ平坦で、壁は急傾斜で直線的に立ち上がる。陥穴。

覆土 色調を基本に6層に分層。人為的な堆積が想定される。

遺物出土状況 覆土中層から、貝殻条痕文系土器が1点出土している。

表8 D028遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文 深鉢	—×—×— 外面 貝殻条痕文 内面 貝殻条痕文	明黄褐 普	繊維含	胴部片	

D031

検出地区 I7-14G

遺構 中央がややくびれた隅丸長方形の土坑で、しっかりとした掘り込みを持つ。底部はほぼ平坦であるが、南側にやや傾斜している。壁は斜めに立ち上がる。

覆土 色調を基本に8層に分層。人為的な堆積が想定される。

遺物出土状況 出土していない。

D032

検出地区 I7-22G

遺構 長方形の平面形で、断面は漏斗条になっている。長軸方向に若干のオーバーハングあり。底部はほぼ平坦であるが、非常に狭く、陥穴である。

覆土 色調を基本に9層に分層。人為的な堆積が想定される。

遺物出土状況 出土していない。

D033

検出地区 I7-31G

遺構 D032同様の形態・規模の土坑で、陥穴である。

覆土 色調を基本に9層に分層。人為的な堆積が想定され、さらに掘り返している状況が看取される。

遺物出土状況 出土していない。

炉 穴

F001

検出地区 G5-79G

形状 不整形の凹状の土坑。

覆土 ソフトローム中に焼土が滲むように混ざる。

遺物出土状況 覆土中から小破片が数点出土している。

F002

検出地区 G5-78G

形状 不整形の土坑で、しっかりとした掘り込みを持つ。底部はほぼ平坦で中央部に凹んでいる部分がある。火床は検出されていない

覆土 覆土は色調を基本に4層に分層され、自然堆積が想定される。焼土は最上層の1層で検出。

F003

検出地区 G5-77G

遺構 不整形の浅い凹状の土坑。底部は平坦で緩やかに立ち上がる。

覆土 ソフトローム中に焼土が滲むように混ざる。

F004

検出地区 G5-77G

遺構 不整楕円形の浅い凹状の土坑。底部は平坦で緩やかに立ち上がる。

覆土 覆土は色調を基本に4層に分層され、自然堆積が想定される。

遺物出土状況 覆土中から小破片が数点出土している。

F005

検出地区 G5-65G

遺構 不整楕円形の浅い土坑。底部は若干の丸みを持つもののほぼ平坦で、斜めに直線的に立ち上がる。火床は赤色に変化している。

覆土 ソフトローム中に焼土が滲むように混ざる。

F006

検出地区 G5-54G

遺構 不整形の土坑で、2～3基の土坑が連続して作られたと考えられる。底部は赤色化までには至っていないが、それぞれ熱を受け劣化している。

覆土 色調を基本に4層に分層。各層に焼土を含み、連続的に火の使用があったことを窺わせる。

遺物出土状況 覆土中から小破片が数点出土している。

F007

検出地区 G5-45G

遺構 不整の楕円形の土坑で底部はほぼ平坦。壁は斜めに直線的に立ち上がる。火床は熱を受け赤化している。

覆土 色調を基本に3層に分層される。

F008

検出地区 G5-17G

遺構 不整形で浅いがしっかりとした土坑。底部は若干傾斜しているが平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。火床は淡い赤色に変化している。

覆土 色調を基本に2層に分層される。

遺物出土状況 出土していない。

F009

検出地区 G4-96G

遺 構 不整形の浅い土坑。底部は丸底でゆるやかに立ち上がる。火床は淡い赤色に変化し、赤化していない部分も熱を受け劣化している。

覆 土 色調を基本に2層に分層される。

遺物出土状況 出土していない。

F010

検出地区 H5-11G

遺 構 不整の楕円形で浅いが、しっかり掘り込まれている土坑。底部はほぼ平坦で斜めに立ち上がる。火床はかすかに赤化している程度。

覆 土 ロームを主体とし、わずかに焼土が滲む程度である。

遺物出土状況 出土していない。

F011

検出地区 H5-22G

遺 構 不整の楕円形で浅いが、しっかり掘り込まれている土坑。底部はほぼ平坦で、小形の円形の小穴を伴う。壁は斜めに立ち上がる。火床はわずかに赤化している程度で、赤化の範囲も小さい。

覆 土 色調を基本に2層に分層。

遺物出土状況 出土していない。

F012

検出地区 H4-86G

遺 構 傾斜地に立地し、楕円形の土坑でしっかりとした掘り込みを持つ。底部は若干の丸みを持つもののほぼ平坦で、谷側へ傾斜している。壁は斜めに立ち上がる。底部に小形の円形の小穴を伴う。火床はわずかに赤化している程度。赤化していない部分も、熱を受け劣化している。

覆 土 色調を基本に2層に分層。上層に焼土を多く含む。

遺物出土状況 出土していない。

F013

検出地区 J5-91G

遺 構 不整の長方形のプラン。底部はほぼ平坦で、急傾斜で立ち上がる。

覆 土 色調を基本に13層に分層され、上層に焼土を含む。人為的な堆積が想定される。

遺物出土状況 出土していない。

F014

検出地区 I5-80G

遺 構 不整の楕円形のプランで、浅い凹型の土坑。底部はほぼ平坦で、ゆるやかに立ち上がる。火床面はわずかに赤化し、赤化範囲も小さい。

覆 土 色調を基本に5層に分層された。

F015

検出地区 I5-87G

遺構 不整形の土抗で、楕円形の土抗が2基重複している。SPB'側の土抗の方が新しく、浅い凹状の土抗。SPB側の土抗は古く、しっかりとした掘り込みを持つ。

覆土 SPB'側は1層で暗褐色を主体とする。SPB側は5層に分層され、上層にて焼土を含む層を検出している。自然堆積と考えられる。

F016

検出地区 I5-62G

遺構 楕円形の土抗で、しっかりとした掘り込みを持つ。底部凹凸がめだつ。壁は斜めに直線的に立ちよる。底部に火床は検出されなかった。

覆土 色調を基本に6層に分層され、最上層で焼土を検出しているものの、概ね自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

F017

検出地区 I6-36G

遺構 不整形の土抗で、しっかりとした掘り込みを持つ。底部凹凸がめだつ。壁は斜めに直線的に立ちよる。底部に火床は検出されていない。

覆土 色調を基本に6層に分層。人為的な埋戻しが想定され、最上層では焼土を検出されている。

遺物出土状況 出土していない。

F018

検出地区 I6-57G

遺構 楕円形のプランで浅い凹み状の土抗。底部は丸みをもち内湾しながらゆるやかに立ち上がる。火床は検出されていない。

覆土 色調を基本に3層に分層。自然堆積が想定される。土層の1・2層は焼土が検出されている。

遺物出土状況 出土していない。

F019

検出地区 H6-29G

遺構 不整形のプランでしっかりとした掘り込みをもつ。底部は、ほぼ平坦で壁は斜めに直線的に立ち上がる。土層においては少量の焼土が検出されているが、火床は検出されていない。

遺物出土状況 出土していない。

F020

検出地区 H6-68G

遺構 不整形のプランで一段のテラスをつくり、さらに下場へと落ちこむ。それぞれの底部はほぼ平坦。壁は斜めに直線的に立ち上る。最上層で焼土を検出しているが火床は検出していない。

覆土 色調を基本に5層に分層され南北交互に流れこんだ自然堆積と考えられる。

F021

検出地区 K5-26G

遺構 不整形のプランでしっかりとした掘り込みをもつ。底部はほぼ平坦で壁は斜めに直線的に立ち上がる。火床は検出していない。

覆土 色調を基本に3層に分層。概ね自然堆積と考えられる。埋没の過程で、遺物の廃棄と火の使用が想定される。

遺物出土状況 覆土中に条痕文系土器の小破片が数点出土している。

表9 F021遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文 深鉢	-×-×- 外面 貝殻条痕文 縦位 内面 貝殻条痕文 縦位	暗褐黒 悪	粗 繊維含む	胴部片	早期
2	縄文 深鉢	-×-×- 外面 貝殻条痕文 縦位 内面 貝殻条痕文 斜位	暗褐黒 悪	粗 繊維含む	胴部片	早期
3	縄文 深鉢	-×-×- 外面 貝殻条痕文 縦位 内面 貝殻条痕文 縦位	暗褐黒 悪	粗 繊維含む	胴部片	早期
4	縄文 深鉢	-×-×- 外面 貝殻条痕文 縦位 斜位 内面 貝殻条痕文 不定方向	暗赤黒 悪	粗 繊維含む	胴部片	早期
5	縄文 深鉢	-×-×- 外面 貝殻条痕文 縦位 内面 貝殻条痕文 縦位 斜位	暗褐黒 悪	粗 繊維含む	胴部片	早期
6	縄文 深鉢	-×-×- 外面 貝殻条痕文 縦位 内面 貝殻条痕文 横位 縦位	暗赤褐 軟	粗 繊維含む	口縁 部片	早期

F022

検出地区 K5-41G

遺構 不整楕円形のプランでしっかりとした掘り込みをもつ。すり鉢状の断面形で底部はほぼ平坦。壁は斜めに直線的に立ち上がる。最上層で焼土を検出しているが、火床は検出されていない。

覆土 調整を5層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

第2節 弥生時代

竪穴住居跡

A013

検出地区 H5-21G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に6層に分層。床面直上層で焼土、炭化物を少量含む。ローム、黒色土および暗褐色土の混合層を検出。

人為的な堆積後、自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて小破片が少量出土。床面直上から甕(1)が床面に転がるような状態で完形で出土。

表10 A013遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	19.4×6.00×19.4 外面 ヘラナデ+ヨコナデ 胴部にハケ状工具による刻目 内面 ヨコナデ 口縁-数条の粘土細痕を残す	明黄褐 硬	砂粒少 密	完形	外面スス付着
2	弥生 甕	-×-×- 外面 折り返しによる複合口縁 口唇部に刻目 内面 ミガキ	暗褐 普	密	口縁 部片	
3	弥生 甕	-×-×- 外面 縦位のヘラケズリ 内面 ナデ調整	暗褐 普	砂粒微 普	底部 片	

A016

検出地区 G5-40G

時期 弥生後期

遺構 主柱穴、壁柱穴の状況から拡張住居と考えられる。本遺跡では大型の住居に属す。

覆土 色調を基本に8層に分層。床面直上及び壁際から少量の炭化材及び少量の焼土を検出。

人為的な堆積後、自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて小破片が少量出土。

表11 A016遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	-×(6.00)×(3.10) 外面 LR単節縄文 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 底部-木葉痕	暗橙褐 普	砂粒多	底部 1/4 以下	
2	弥生 甕	(22.2)×-×(10.8) 外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ 口縁-折り返し口縁	暗橙褐 硬	砂粒多 密	1/4 以下	外面スス付着 口縁~胴部
3	弥生 甕	-×-×- 外面 LR→RL→LR-RL縄文交互施文 内面 ヘラケズリ	暗褐 普	砂粒多	胴部 1/4 以下	スス付着
4	弥生 甕	-×8.00×(27.2) 外面 頸部ナナメのヘラナデ 胴部-RL単節縄文 内面 ヨコヘラケズリ 底部-木葉痕	明褐 普	砂粒多 小石少	略完形 口縁 部欠	内外面スス付着

A017

検出地区 G5-10G

時期 弥生後期

遺構 遺物出土状況及び焼土検出状況から消失家屋と考えられる。

覆土 色調を基本に11層に分層。床面直上に厚く広範囲に広がる焼土層を検出。人為的堆積後、自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 床面直上から完形あるいは完形レベルの遺物が大量に出土している。

表12 A017遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器	14.0×-×(3.50) 外面 ヘラミガキ(ヨコ・ナナメ) 内面 ハケメ(ナナメ)	明赤褐 良	砂粒少 密	口縁 1/4 以下	
2	土師器 甕	(22.0)×-×(3.20) 外面 口唇部-ハケ状工具による刻目 ハケメ 内面 ハケメ	明赤褐 普	砂粒多	1/4 以下	口縁部片
3	土師器 甕	(19.0)×-×(7.10) 外面 タテ~ナナメ方向 ハケメ 内面 ヨコ方向 ハケメ	明赤褐 普	砂粒少	1/4 以下	口縁部片
4	弥生 壺	23.0×-×- 口縁-複合口縁 外面・内面 ヘラミガキ 内外面 とも磨耗著しく調整はわずかに残るのみ RL縄文(横位)施文のち端部 に縄文原体による押圧 棒状貼付(2本1組)	明橙 軟	砂粒 小石 粗	1/4 以下	赤彩 口縁 頸部片
5	土師器 甕	(17.0)×-×(6.70) 外面 ハケメ 内面 ハケメ	暗黄黒 普	砂粒少	1/4 以下	口縁部片
6	土師器 高坏	9.80×7.20×8.00 外面 タテヘラミガキ+ヨコ~ナナメ方向のヘラナデ 内面 坏部-ヘラミガキ 脚部に孔3つ 内1つは穿孔せず	明橙褐 硬	砂粒少	2/3	
7	土師器 高坏	(11.0)×-×(9.30) 外面 タテ~ナナメ方向のヘラミガキ 内面 坏部-ヘラミガキ 脚部-ヘラケズリ 脚部上半に孔3つ 下半に1つ確認	暗褐 硬	砂粒少 小石微 密	2/3	
8	土師器 高坏	12.0×12.0×11.4 外面 ていねいなヘラミガキ(坏部ヨコ~ナナメ)(脚部 タテ) 内面 坏部ヘラミガキ 脚部ハケメ 脚部上下2個1組の孔3ヶ所有	明橙褐 硬	小石少	完形	外面スス付着
9	弥生 壺	12.8×6.00×15.7 外面 LR縄文→刻目→LR縄文→刻目→櫛描波状文→LR縄文 内面 ヨコナデ	明赤褐 良	小石少 密	完形	
10	土師器 甕	14.1×6.50×14.7 最大径12.9 外面 ヘラケズリ→ヨコナデ 内面 ヨコナデ	明橙褐 普	砂粒少	完形	外面スス付着
11	弥生 壺	-×6.40×(18.7) 最大径16.0 内面 ヨコ方向ヘラミガキ 外面 ヘラミガキ→LR縄文→結節→RL縄文→ヘラケズリ→ヘラミ ガキ→ヨコナデ 縄文施文部分の上下を沈線で区画	明赤 黄褐 普	砂粒少	2/3	赤彩
12	土師器 甕	-×-×(9.50) 外面 ヨコヘラナデ 内面 ヨコヘラナデ	暗褐黒 普	砂少	胴部片 1/4 以下	内面スス付着
13	弥生	-×6.00×(13.6) 外面 L燃糸文 内面 ヨコナデ	明赤 黄褐 普	砂粒少 密	底~ 胴部片 1/2	
14	土師器 甕	-×-×(10.4) 外面 ハケメ 内面 ハケメ ヘラケズリ	明赤褐 普	砂粒多	1/4 以下	胴~台部片

15	弥生壺	—×7.00×(21.2) 外面 頸部—タテハケ 内面 胴部—ヨコナデ+ヨコヘラミガキ	明橙褐 軟	小石多	略完形 口縁 部片	内外面磨耗剥離 黒斑有
16	弥生壺	—×9.00×(24.7) 外面 ヘラナデ+ヘラミガキ(ナナメ) 内面 ヘラケズリ	暗褐 軟	砂粒多	底部片 1/4 以下	黒斑有 スス付着
17	土師器甕	(18.0)×—×(28.1) 外面 ハケメ 内面 口縁部—ヨコハケメ ヘラケズリ	明赤橙 褐黒 普		2/3	台付甕
18	弥生壺	—×—×— 外面 網目状撚糸文 タテヘラミガキ 内面 ヨコナデ	明橙褐 普	砂粒多 粗	頸部片 1/4 以下	
19	土師器高坏	—×—×— 外面 ナナメのヘラミガキ 内面 ナナメのヘラミガキ	暗褐 硬	砂粒少 密	坏部片	小石微量
20	弥生壺	21.6×—×(10.2) 折り返し口縁 外面 ヘラミガキ→RL→LR→RL縄文 LR単節縄文 端部棒状 工具による押圧 内面 器面の剥離著しく不明	暗赤褐 軟	小石多 粗	1/4 以下	赤彩 口縁~頸部片
21	土師器甕	18.0×—×(9.50) 外面 口縁部—ハケメ→ヨコナデ 胴部—ハケメ 内面 口縁部—ハケメ 胴部—ヘラケズリ	暗赤褐 普	砂粒多 普 小石少	1/4 以下	内面スス付着 口縁~胴部片
22	土師器甕	(18.0)×—×— 外面 口縁部—ナナメ方向のヘラケズリ→ヨコナデ 胴部—ハケメ 内面 ヘラケズリ→ヘラナデ	明褐 硬	砂粒少	1/4 以下	口縁~胴部片
23	土師器甕	—×7.20×(16.8) 最大径28.5 外面 ヘラケズリ+ハケメ (ナナメ) 内面 ヘラナデ+ヘラミガキ	明褐黒 普	砂粒多 小石 微量	底部片 1/4 以下	
24	土師器甕	—×—×(16.4) 外面 ハケメ (ヨコ~ナナメ) 内面 ヨコナデ	明赤褐 普	砂粒多	胴部片 1/2	
25	土師器甕	—×9.00×— 外面 ヘラケズリ+ヘラミガキ(タテ) 内面 ヘラナデ	明褐 軟	小石多 粗	1/4 以下	胴~底部片
26	土師器甕	—×6.40×(11.7) 外面 ヘラケズリ+ナデ 内面 ヘラケズリ→ヨコナデ 底面—ハケメ	暗橙褐 普	粗	1/4	黒斑有
27	弥生甕	13.4×6.00×13.4 最大径10.8 外面 ヘラケズリ→ヘラナデ ヨコナデ 胴部—RL縄文ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 底部—木葉痕	橙黄黒 普	砂粒少	完形	内面に付着物有
28	弥生壺	—×6.2×(13.5) 最大径12.2 外面 RL縄文 頸部—ヨコナデ 内面 ヘラナデ 底部—木葉痕	明黄 普	砂粒	2/3	
29	石器磨石	長さ11.6×幅9.70×厚さ8.30 重量1590.0g				安山岩
30	石器石皿	長さ12.5×幅7.80×厚さ3.50 重量559.9g				砂岩
31	石器石皿	長さ25.0×幅14.6×厚さ4.00 重量2130.0g				砂岩
32	土師器甕	—×(8.00)×— 外面 ハケメ 内面 ハケメ 台部—内面ヘラケズリ	暗赤褐 普	小石少 粗	台部片 1/4 以下	台付甕

33	土師器 甕	－×8.00×－ 外面 ハケメ→ヘラミガキ(タテ) 内面 ハケメ	暗赤褐 普	小石少 粗	台部片 1/4 以下	台付甕
34	土師器 甕	－×8.80×－ 外面 タテとナナメのハケメ 内面 ヨコナデ	暗赤褐 軟	小石多 粗	台部片 1/4 以下	台付甕
35	土師器 甕	－×9.00×－ 外面 タテのハケメ 内面 ヘラケズリ+ヘラナデ	暗赤褐 軟	砂粒多 粗	台部片 1/4 以下	台付甕
36	土師器 甕	－×13.0×(8.50) 外面 上部タテ方向ハケメ 下部タテ～ナナメ方向ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ	明赤褐 硬	砂粒 密	台部片 1/4 以下	台付甕

A018

検出地区 H4-91G

時期 弥生後期

遺構 炉は検出されていないが、遺構の形態・規模・床面の検出状況等から住居跡と判断した。小型の住居跡に属す。

覆土 色調を基本に8層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 覆土中から小破片が数点出土したのみ。

表13 A018遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生	－×(7.00)×(2.50) 外面 ヘラケズリわずかにハケメ 内面 ヘラケズリ+ヘラナデ	暗赤褐 普	砂粒多 密	底部 1/4	植物繊維付着 底部に線状痕有
2	弥生	－×－×－ 外面 LR縄文 内面 ヘラケズリ	暗褐 普	砂粒多	胴部片	

A020

検出地区 G5-19G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に9層に分層。炉の直上、周囲にわずかに焼土の検出が認められるが、概ね自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 覆土中から小破片が少量出土。

表14 A020遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	－×7.00×(7.50) 外面 ヨコナデ L撚糸文 内面 ヨコヘラナデ 底部-木葉痕	明橙褐 普	砂粒多 粗		
2	弥生 壺	－×8.60×(10.0) 外面 胴部全面にLR縄文 内面 ヘラナデ 底部-木葉痕	明橙 良	砂粒少 密	胴部～ 底部 2/3	黒斑?
3	弥生	－×－×－ 外面 Lの撚糸文(2条1組) 内面 ナデ+ヘラミガキ	暗褐 硬	砂粒多	胴部片	外面スス付着

4	弥生	-X-X- 外面 附加条縄文 内面 ナデ	暗褐 軟	砂粒多 粗 小石多	胴部片	外面スス付着
5	弥生	-X-X- 外面 L撚糸文(2条1組) 内面 ナデ+ヘラミガキ	暗黄褐 硬	砂粒多	胴部片	外面少量のスス 付着
6	弥生	-X-X- 外面 L撚糸文(2条1組) 内面 ナデ+ヘラミガキ	暗黄褐 硬	砂粒多	胴部片	
7	弥生	-X-X- 外面 附加条縄文 内面 磨耗著しく不明	暗褐 軟	砂粒多 粗 小石多	胴部片	外面スス付着
8	弥生	-X-X- 外面 口唇上-RL縄文 口唇下-ヨコナデRL縄文 内面 ヨコナデ→ナナメのナデ	暗褐 普	砂粒多 小石多	口縁 部片	外面スス付着
9	弥生	-X-X- 外面 附加条縄文 内面 ナデ?	暗褐 軟	砂粒多 粗 小石多	胴部片	外面スス付着

A023

検出地区 G5-27G

時 期 弥生後期

覆 土 色調を基本に7層に分層。床面直上に厚く広範囲に広がる焼土層を検出。人為的な堆積の後、自然堆積による埋没が考えられる。

遺物出土状況 覆土下層から中層にかけて小破片が少量出土。

表15 A023遺物観察表

(単位cm)

No	種 別 器 形	容 量 口径×底径×器高 成 形・調 整 等 の 特 徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	弥生 甕	-X-X- 外面 L撚糸 内面 ナデ	暗褐 普	砂粒少	底部片	
2	弥生 甕	-X-X- 外面 口縁上部ナデ→粘土帯を張り付け後刺突を加えて台形状の突帯 を作出→ナデ 内面 ヘラケズリ後ヘラミガキ	暗褐 普	砂粒少	口縁 部片	外面スス付着
3	弥生	-X-X- 外面 口唇上-ヘラナデ後棒状工具による押圧 口縁部-RL縄文 内面 ヘラナデ 口縁-粘土帯を貼付けた上、指頭?で圧痕を加える	暗褐 硬	砂粒多	口縁 部片	
4	弥生	-X-X- 外面 縦位の櫛描文で区画 左に斜めの格子文 右に3本歯の波状の 櫛描文4条 内面 ヘラナデ一部ヘラミガキ	暗褐黒 普	砂粒多	頸部	
5	弥生 甕	-X-X- 外面 LR縄文? 内面 ナデ後ヘラミガキ	暗褐黒 普	砂粒多	胴部片	外面スス付着
6	弥生	-X-X- 外面 附加条縄文 内面 ヘラナデ後一部ヘラミガキ	暗褐 硬	砂粒多	胴部片	外面スス付着
7	弥生 甕	-X-X- 外面 口唇上-ヘラ状工具?による刺突 口縁部-5本歯櫛描横走文 ののちLの撚糸文 内面 丁寧なヘラミガキ	明黄褐 硬	砂粒少 密	口縁 部片	

A029

検出地区 H5-60G

時 期 弥生後期

覆 土 色調を基本に6層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて小破片が少量出土。

表16 A029遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容 量 口径×底径×器高 成 形・調 整 等 の 特 徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	弥生 甕	-×-×- 口縁部-ナデ 外面 口唇上-LR縄文 折り返し部-LR縄文 下端に刻み目 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ 折り返し口縁	暗褐 普	砂粒少	口縁 部片	外面スス付着
2	弥生	-×-×- 外面 斜めと横方向の附加条縄文? 内面 ヘラケズリ	暗褐 普	砂粒多	胴部片	
3	弥生	-×-×- 外面 口唇上-刺突? 折り返し部-横位の捺糸文→縦位の捺糸文 内面 ナデ後ヘラミガキ 折り返し口縁	明橙褐 普	砂粒多	口縁 部片	
4	弥生	-×-×- 外面 結節2段→捺糸文 内面 器面剥離有 残存部分はナデ	暗褐 軟	砂粒多	頸部片	
5	弥生	-×-×- 外面 口唇部-刻み目 ヨコヘラナデ 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	暗褐黒 硬	砂粒多	口縁 部片	
6	弥生	-×-×- 外面 Lの捺糸文 内面 磨耗著しく不明	暗褐 軟	砂粒多	胴部片	

A030

検出地区 H5-48G

時 期 弥生後期

覆 土 色調を基本に7層に分層。自然堆積が想定される。

遺物出土状況 覆土下層から上層にかけて少量出土。

表17 A030遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容 量 口径×底径×器高 成 形・調 整 等 の 特 徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	弥生 甕	(22.0)×-×(8.90) 外面 口唇部-棒状工具による押圧 ヘラナデ ヨコナデ 内面 ヘラナデ ヨコナデ	明黄褐 軟	小石多 粗	口縁 上胴部 1/4	
2	弥生 壺	-×-×10.9 外面 結節1段 附加条縄文LR+L? 内面 ヨコナデ	暗橙褐 普	砂粒	胴部片 1/4	
3	弥生 壺	-×7.00×(16.7) 外面 附加条縄文 内面 ヨコナデ 底部-木葉痕	暗赤褐 硬	砂粒 密	胴部片 ~底部 1/2	

A031

検出地区 H5-48G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に5層に分層。床面直上層に焼土層を検出。人為的堆積後、自然堆積が想定される。

遺物出土状況 覆土下層から上層にかけて小破片が少量出土。

表18 A031遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	—×4.80×3.50 外面 撚糸 ヘラケズリ 内面 ヨコナデ 底面—木葉痕	暗褐 普	砂粒	底部片	
2	弥生 甕	(20.0)×—×(11.6) 外面 口縁部～上、下端にヘラ状土具による刻目 タテ方向ヘラミガキRL縄文 内面 ヨコ方向ヘラミガキ	明赤褐 硬	砂粒少 密	口縁～ 胴部 1/4	折り返し口縁
3	弥生 甕	—×—×16.0 外面 ナデ—RL縄文L撚糸 内面 ヨコ方向ヘラミガキ	暗橙 褐黒 硬	砂粒少 密	胴部片 1/4	

A033

検出地区 H5-17G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に5層に分層。床面直上に焼土層を検出。人為的堆積後、自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土下層にかけて少量出土。

表19 A033遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 壺	25.0×—×13.1 外面 ヨコナデ+タテヘラミガキ 結節3段?→RL単節縄文 ボタン 状貼付4個 内面 剥離著しく不明 内外面剥離著しい	明橙褐 軟	砂粒多 黒色粒 多	口縁部 頸部 1/2	赤彩
2	弥生 壺	20.0×—×21.8 外面 口縁部～下端に刻目 タテヘラミガキ→結節2段→LR—RL →LR→ヨコヘラミガキ 内面 器面の剥離著しく不明 折り返縁口	明黄褐 軟	砂粒多 粗	口縁～ 胴部片 1/2	赤彩
3	弥生 甕	26.0×9.00×30.2 外面 口唇部～縄文原体の押圧 口縁部～LR単節縄文→頸部～ヨコ ナデ胴部～LR単節縄文 内面 ヨコヘラナデ 底部—木葉痕	暗褐 普	砂粒 黒色 白色粒	口縁～ 底部 1/3	胴部一部欠損 外面スス付着

A035

検出地区 H5-77G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に3層に分層。床面直上、壁際で一部焼土を検出しているが、概ね自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土下層にかけて小破片が少量出土。

表20 A035遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	—×6.60×(5.60) 外面 L撚糸 内面 器面の剥離著しく不明 底部—ヘラケズリ 木葉痕	暗褐 軟	砂粒少	底部片 1/4 以下	
2	弥生 甕	—×7.00×(2.00) 外面 Lの撚糸? 内面 ヨコナデ? 底部—木葉痕	暗橙褐 普	小石多 粗	底部片 1/4 以下	

A036

検出地区 H5-66G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に7層に分層。床面直上に比較的広範囲に焼土を検出。人為的な堆積後、自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて小破片が少量出土。

表21 A036遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	—×—×— 外面 L撚糸文 内面 ナデ	明褐 硬	砂粒多	胴部片	
2	弥生 甕	—×—×— 外面 L撚糸文(2条1組) 内面 ナデ	明黄褐 硬	砂粒多	胴部片	
3	弥生 甕	—×—×— 外面 附加条縄文 内面 一部磨耗 ヘラミガキ?	暗橙褐 硬	砂粒		外面スス付着
4	弥生 甕	—×—×— 外面 L撚糸文 内面 ナデ 一部器面剥離	明黄褐 硬	砂粒多 粗	胴部片	

A043

検出地区 H7-4G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に11層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 遺物量は少なく小破片が多いが床面直上の遺物が多い。石皿出土。

表22 A043遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	石器 石皿	(11.5)×(7.20)×3.40 母石—砂岩				
2	弥生 甕	18.0×7.00×24.2 最大径17.2 外面 口唇部—縄文原体の押圧 口縁部—RL単節縄文 下端にハケ状 工具による押圧 頸部上と胴部や中央にハケ状工具による刺突 胴部上半—ヨコナデ 4本歯の櫛描文による縦区画を施す 胴部下半—RL単節縄文 底部—木葉痕 内面 ヨコナデ+ヨコヘラミガキ	暗褐 硬	砂粒少 密	完形	スス付着

3	弥生 甕	-×(6.40)×(1.50) 外面 LR縄文 底部-木葉痕	暗褐 硬	砂粒 小石	底部 1/4 以下	
4	弥生 甕	-×8.80×(2.00) 外面 Rの捺糸 底部-木葉痕	暗褐 軟	砂粒多 小石多 粗	底部 1/4 以下	
5	弥生 甕	-×8.50×(4.00) 外面 ヘラミガキ(ヨコ)Rの捺糸 底部-木葉痕 内面 ヘラミガキ(ヨコ)Rの捺糸	暗褐 硬	砂粒多	底部片	
6	弥生 甕	(15.0)×-×(11.9) 最大径(13.8) 口唇部-縄文原体の押圧 外面 口縁部-RL単節縄文下端にハケ状工具による押圧 頸部-ヨコ ナデ胴部-LR単節縄文 内面 ヨコナデ+ヨコヘラミガキ	暗黒褐 硬	砂粒少 密	口縁 胴部 1/2	折り返し口縁

A045

検出地区 H6-63G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に13層に分層。床面直上、壁際に焼土を検出。人為的堆積の後自然堆積による埋没が考えられる。

遺物出土状況 覆土中から小破片が少量出土したのみ。

表23 A045遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生	-×-×- 外面 LR縄文? 附加条? 内面 ナデ?	明褐 硬	砂粒	胴部片	
2	弥生	-×-×- 外面 LR単節縄文 内面 ナデ後ヘラミガキ	暗褐 硬	砂粒多 密	胴部片	
3	弥生	-×-×- 外面 口唇上-LR? 折り返し部-RL縄文 下端に刻み目 内面 ヨコナデ後ヨコヘラミガキ 口縁-折り返し口縁	暗褐黒 硬	砂粒多	口縁 部片	
4	弥生 甕	-×-×- 外面 上部ナデ 附加条? 内面 ヘラナデ後ヘラミガキ	暗赤褐 軟	砂粒 粗	胴部片	スス附着

A046

検出地区 H6-81G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に13層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面から覆土中にかけて小破片が少量出土しているのみ。

表24 A046遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	-×-×- 外面 LR→結節1段→RL 内面 ナデ	暗褐 軟	砂粒多 小石多 粗	胴部片	外面スス附着
2	弥生	-×-×- 外面 口唇上-縄文原体の押圧ヨコナデ後縦位区画する櫛描文1条 区画内に縦位の櫛描文8条→横走する櫛描文3条 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	暗褐 硬	砂粒多 密	口縁 部片	

3	弥生甕	-×-×- 外面 RL→LR→RLの羽状構成 内面 ヨコナデ	暗褐 普	砂粒多	胴部片	
4	弥生	-×-×- 外面 ヨコナデ後LR 下部は原体末端のループ? 内面 ナデ 底部-木葉痕?	明橙褐 普	砂粒多 密	底部片	

A047

検出地区 H6-51G

時期 弥生後期

覆土 色調を基本に11層に分層。床面、壁際に焼土を検出。人為的な堆積の後自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 覆土下層から上層にかけて小破片が少量出土しているのみ。

表25 A047遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	石鏃	長さ2.10×幅1.80×厚さ4.00 重量0.90g				母石-黒曜石
2	石鏃	長さ2.00×幅1.70×厚さ3.00 重量1.00g				母石-チャート
3	磨石	長さ(9.30)×幅(5.40)×厚さ(2.70) 重量146.8g				母石-砂岩
4	弥生	-×-×- 外面 ナデ→附加条縄文 内面 ナデ	明黄褐 軟	砂粒多	胴部片	
5	弥生甕	-×-×- 外面 附加条縄文 内面 ナデ後ヘラミガキ	暗褐 普	小石多	胴部片	外面スス附着
6	弥生	-×-×- 外面 縦位の櫛描文の横に波状の櫛描文	暗褐 普	小石多 粗	胴部片	
7	弥生甕	-×-×- 外面 口唇上-LR 折り返し部-LR 内面 ヨコナデ後ヨコヘラミガキ 口縁-折り返し口縁	暗褐 普	砂粒多 小石少 粗	口縁 部片	
8	弥生	-×-×- 外面 ナデ→横走櫛描文1条→附加条縄文 内面 ナデ	明橙褐 普	砂粒多 小石多 粗	胴部片	
9	弥生甕	-×-×- 外面 右端に縦区画の櫛描文 区画内に横走櫛描文5条→RL縄文 内面 ヨコナデ後一部ヘラミガキ	暗褐 硬	砂粒多 小石多	胴部片	外面スス附着
10	土師器 坏 (灯明皿)	(7.80)×5.00×2.90 外面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 静止ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	㊦褐 ㊧暗茶褐 良	雲母石英 砂赤黒白 金雲母微	1/5	口縁部内外に スス附着
11	土師器 坏 (灯明皿)	(8.20)×(4.60)×(2.80) 外面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 静止ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	㊦褐 ㊧茶褐 良	雲母石英 赤黒白 微	1/4	口縁部内外に スス附着

方形周溝墓

C001

検出地区 G5-100G

時期 弥生終末

遺構 コーナーに1カ所陸橋部を持つタイプの方形周溝墓。

覆土 色調を基本に8層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 周溝内は覆土下層から上層にかけて比較的多く出土。方台部から溝へ落ちたような状況で出土する傾向あり。主体部は検出されず。溝内埋葬か？

表26 C001遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 鉢	13.5×5.30×6.00 外面 タテ～ナナメ方向 ハケメ→ヘラケズリ 内面 ヨコ～ナナメナデ	明黄褐 普	砂粒少	完形	
2	土師器 器台	7.60×8.10×7.40 外面 ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ヘラナデ ヘラケズリ	明黄褐 普	砂粒多	完形	
3	土師器 壺	(12.4)×-×(20.0) 外面 タテ方向ヘラミガキ タテ～ナナメ方向ヘラケズリ 内面 口縁部-ヨコ方向ヘラミガキ 胴部-ヨコ方向ヘラナデ	明赤黄褐 普		口縁～ 胴部 1/4	
4	土師器 壺	12.8×-×(25.0) 外面 口縁-ヨコナデ 胴上部-ヘラミガキ(タテ) ヘラケズリ 内面 ヘラナデ ヨコナデ	明黄 普	砂粒少 密	1/2	
5	土師器 台付甕	(20.0)×11.0×31.5 外面 頸部-タテハケ 胴部-ヨコハケ 脚部-タテとナナメのハケ 内面 口縁～頸部ヨコハケ 口唇部-ハケ状工具による刻み	暗褐 普	砂粒少	略完形	口縁部2/3 欠損
6	弥生 壺	19.0×-×(13.9) 外面 口縁部-ヘラナデ→タテヘラミガキ 頸部-タテヘラミガキ 円形刺突(径1mm)巡らせた突帯 胴部-ヨコヘラミガキ 胴部上に櫛描文2条横走 内面 口縁部-ヨコヘラミガキ 頸部-ヨコヘラケズリ	明橙褐 硬	砂粒少 密	口縁～ 胴部 1/2	赤彩
7	弥生 壺	-×-×(20.2) 外面 タテヘラミガキ→円形浮文残存33個(結節文多段) ヘラミガキ→RL→LR→山形文2段→(結節文多段)→ヘラミガキ LR→LR縄文施文の上に 内面 器面の剥離著しく不明	明橙褐 普	砂粒少	1/2	赤彩
8	弥生 壺	-×9.00×(29.9) 外面 ヘラミガキ→円形浮文(38個)→LR→ヘラ ミガキ→LR縄文を施した後山形文を施す→ヘラミガキ→LR縄文+山形 文→ヘラミガキ 内面 ナデ→ヘラミガキ	明橙褐 軟	砂粒多 粗	略完形	赤彩 内外面剥 離磨耗著しい 口縁部欠損

C002

検出地区 G5-16G

遺構 コーナーに2カ所陸橋部を持つタイプの方形周溝墓。方台部ほぼ中央に土抗あり。

覆土 色調を基本に5層に分層。自然堆積と考えられる。主体部は7層に分層され人為的な堆積が考えられる。

遺物出土状況 周溝、主体部覆土から小破片が少量出土。

C003

検出地区 I6-8G

遺構 コーナーに1カ所陸橋部を持つタイプの方形周溝墓。方台部北西コーナーに土抗1基を検出。

覆 土 色調を基本に2層に分層。自然堆積と考えられる。主体部は5層に分層され人為的な堆積が考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

土 坑

D002

検出地区 G5-36G

遺 構 隅丸長方形の浅い土坑。底部はほぼ平坦で底面に小穴を1基検出。壁は斜めに立ち上がる。

覆 土 2層に分層され上層では炭化物を検出。

D005

検出地区 G5-58G

遺 構 不整形の浅い土坑。底部はほぼ平坦で壁は斜めに立ち上がる。

覆 土 色調を基本に2層に分層され上層では少量の炭化物、焼土を検出。

遺物出土状況 覆土中から小破片が数点出土。

D006

検出地区 G5-49G

遺 構 円形のしっかりした土坑。底部はほぼ平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。

覆 土 色調を基本に5層に分層。人為的な堆積が考えられる。

遺物出土状況 覆土中から数点出土。

表27 D006遺物観察表

(単位cm)

No	種 別 器 形	容 量 口径×底径×器高 成 形・調 整 等 の 特 徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	弥生	—×—×— 外面 ヨコナデ→結節1段→RL縄文 内面 ヨコナデ	明橙褐 普	砂粒多	頸部片	
2	弥生	—×(10.4)×<4.60> 外面 ナデ 内面 ヘラケズリ ナデ	暗褐 硬	砂粒少	底部 1/4 以下	

D010

検出地区 H5-53G

遺 構 不整形のしっかりとした土坑。底部は若干の凹凸があるものの、概ね平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。壁面、底面とも炭化物が付着している。

覆 土 色調を基本に4層に分層され全体を通して炭化物が混入している。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

D013

検出地区 H5-65G

遺 構 不整楕円形のしっかりとした掘り込みをもつ土坑。底部は若干丸みをもった平坦な床で壁は斜めに立ち上がる。

覆 土 色調を基本に6層に分層され、覆土中層から下層にかけて焼土が検出される。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

D021

検出地区

I6-53G

遺構
立ち上がる。

不整円形のしっかりとした掘り込みをもつ土抗。底部はほぼ平坦で、壁は急傾斜で立ち

覆土

色調を基本に6層に分層され自然堆積と考えられる。

D022

検出地区

I6-84G

遺構
立ち上がる。

不整楕円形の土抗でしっかりとした掘り込みをもつ。底部はほぼ平坦で壁はほぼ垂直に

覆土

色調を基本に7層に分層され、自然堆積が考えられる。

D030

検出地区

I6-90G

遺構
立ち上がる。

不整円形の土抗でしっかりとした掘り込みをもつ。底部はほぼ平坦で壁はほぼ急傾斜に

覆土

色調を基本に8層に分層され、自然堆積が考えられる。

第3節 古墳時代

竪穴住居跡

A001

検出地区 G6-17G

時期 古墳前期

覆土 色調を基本に11層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて多量に出土。床面直上から器台が出土。

表28 A001遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 高坏	21.6×9.60×13.2 外面 不定方向のヘラミガキ 内面 ヨコ・ナナメのヘラミガキ 脚部-ヘラミガキ	暗橙褐 普	砂粒多	略完形	
2	土師器 器台	7.80×9.40×7.50 外面 ヘラケズリ ヘラミガキ ヨコナデ 内面 器受部-ヨコナデ 脚部-ヨコナデ 接合部-ヘラケズリ	明赤褐	砂粒少 密	略完形	
3	土師器 器台	7.60×9.60×10.5 外面 ヨコナデヘラケズリ(ヨコ~ナナメ) ヘラミガキ(ヨコ~ナナメ) 内面 ヨコナデヘラケズリ ヘラミガキ(ナナメ)	暗黄褐 普	砂粒少	完形	スス附着
4	土師器 埴	16.6×10.5×6.00 外面 ヨコヘラミガキ ヘラケズリ ヘラナデ(ヨコ~ナナメ) 内面 ヘラミガキ ヘラケズリ(ヨコ)	明黄褐 普	小石多	完形	
5	土師器	(9.60)×-×(3.90) 外面 ヘラナデ→ヘラミガキ(ヨコ・タテ) 内面 ナデ→ヘラミガキ(ヨコ・ナナメ)	暗橙褐 普	砂粒少	口縁部 破片 1/4	
6	土師器 蓋?	3.60×-×(2.30) 外面 ヘラケズリ→ヘラミガキ(タテ) 内面 ヘラケズリ(ヨコ)	暗橙褐 良	砂粒少 密	1/2	
7	土師器 高坏	(7.00)×-×(6.20) 外面 タテ~ナナメヘラケズリ一部ヘラミガキ タテの粗いナデ 内面 単位の細かいヘラミガキ	暗黄褐 良	砂粒少	1/2	
8	土師器 高坏	-×5.40×(4.80) 外面 ヘラケズリ→ヘラミガキ(不明瞭) 内面 ヘラケズリ	暗黄褐 良	砂粒少 密	脚部 破片 1/2	ミニチュア土器
9	土師器 甕	10.6×6.40×15.6 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ→ヨコナデ	暗黄褐 良	砂粒少	完形	小型台付甕
10	土師器 甕	-×6.60×(5.50) 外面 ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ハケメ	暗赤褐 良	砂粒少 密	脚部 破片 1/4	
11	土師器	(10.0)×-×(2.80) 外面 ヘラミガキ ヘラナデ 内面 ヘラミガキ ヘラナデ	明橙褐 良	砂粒少 密	口縁部 破片 1/4	
12	土師器 鉢	7.80×3.80×7.00 外面 ヘラケズリ→ハケヨコナデ(口縁) 内面 ヨコナデ ヘラナデ	明赤褐 良	砂粒少	完形	
13	土師器 甕	(20.0)×-×(5.30) 外面 ヨコナデ ハケメ(ナナメ) 内面 ハケメ(ヨコ~ナナメ)	明黄黒 良	砂粒少	口縁部 破片 1/4	
14	土師器 甕	(17.0)×-×(17.3) 外面 口唇部-棒状工具による押圧。指頭圧痕 頸部~胴部ヨコ方向のハケメ 内面 ヨコナデ	橙黄黒	砂粒少	1/4	

15	土師器 台付甕	ー×10.6×(13.5) 外面 ヘラケズリ(ナナメ～タテ) 内面 ヘラケズリ 脚部ーヨコナデ	明赤褐 良	砂粒少	1/2	
16	土師器 甕	ー×6.00×(13.5) 外面 ヘラケズリ→ヘラナデ ミガキ(ナナメ) 内面 ヘラケズリ(ナナメ～ヨコ)	明赤橙褐 良	砂粒少 密	1/2	
17	土師器 台付甕	ー×(7.40)×(26.9) 外面 ハケメ(ナナメ) 内面 ヘラケズリ 脚部内面ーハケメ	明橙褐 普	砂粒少	略完形	
18	土師器 高坏	(17.0)×ー×(12.2) 台部孔3個(径1cm程) 外面 ヘラミガキ(タテ～ヨコ) 内面 ヨコナデ ヨコヘラミガキ 台部ヨコナデ	暗橙褐 普	砂粒多 小石小粗	略完形	
19	土師器 甕	(24.0)×(6.00)×(38.0) 外面 ヘラナデ ナデ 内面 口縁部ーヘラナデ ナデ 口縁ハケ状工具による刻み目	明橙褐 普		2/3	

A002

検出地区 G6-17G
 時期 古墳前期
 遺構 遺存状況は悪く壁の立ち上がりはわずかであった。
 覆土 色調を基本に3層に分層。最上層は焼土を検出。
 遺物出土状況 床面直上から小破片が数点出土。土錘出土。

表29 A002遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 土錘	長さ4.10×径4.40×孔径1.20				

A003

検出地区 G5-97G
 時期 古墳前期
 覆土 色調を10層に分層。自然堆積と考えられる。
 遺物出土状況 床面直上から上層にかけて比較的多量に出土。床面直上から白色粘土塊出土。

表30 A003遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	石器 砥石	長さ5.40×幅5.00×厚さ1.50 重量64.5g			1/2	擬灰岩
2	石鏃	長さ1.30×幅1.20×厚さ0.40 重量0.40g			完形	黒曜石
3	土師器 坏	(13.2)×3.60×5.10 外面 ナナメ方向ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面 ヘラナデ→ヘラミガキ	明橙褐 普	砂粒小	2/3	
4	土師器 高坏	(5.40)×(5.00)×4.80 外面 タテ方向ヘラケズリ ヘラミガキ 内面 ヨコ～ナナメ方向 ヘラケズリ	明橙褐 普	砂粒小	2/3	ミニチュア土器

5	土師器 高坏	—×—×(5.80) 外面 タテ方向 ヘラミガキ 内面 ヨコ方向 ヘラミガキ 脚部孔3個	明赤褐 良	雲母少	1/2	
6	土師器 甕	14.0×6.20×13.0 外面 ヘラケズリ→ヘラナデ 内面 ヘラナデ 折返し口縁	暗褐 普	砂粒多 粗	完形	口縁～ 胴部一部破損 内外面スス付着
7	土師器 甕	(18.0)×—×— 外面 ヘラケズリ→ヘラナデ 内面 ヘラナデ一部ヘラケズリ	明赤褐 軟	砂粒多	口縁部 破片 1/4	
8	土師器 甕	14.2×10.0×26.0 外面 ヨコ・ナナメ方向のヘラケズリ後ヨコヘラナデ 脚部-タテヘラケズリ 内面 ヨコヘラケズリ(口縁～頸部)ヨコヘラケズリ	暗褐 硬	砂粒多 密	略完形	外面スス付着 台付甕

A004

検出地区 G5-89G

時期 古墳前期

遺構 遺物出土状況および焼土検出状況から焼失住居と考えられる。

覆土 色調を基本に11層に分層。床面直上層で多量の焼土を広範囲に検出。人為的な堆積の後自然堆積が推定された。

遺物出土状況 全体に出土量は少ないが、焼土層から床面直上にかけて遺物が目立つ。

表31 A004遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特 徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	石器 石皿	長さ7.80×幅6.00×厚さ4.80 重量169.4g				砂岩
2	土師器 甕	—×(10.4)×(7.00) 外面 タテ～ナナメ方向ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ	明橙褐 普	砂粒少	台部片 1/2	台付甕
3	土師器 甕	—×11.1×(6.50) 外面 タテ方向ヘラケズリ→ヘラミガキ(タテ) 内面 ヨコ方向ヘラケズリ	明橙褐 普	砂粒多	台部片 1/2	台付甕
4	土師器 高坏	—×—×(8.00) 外面 ヘラケズリ(ナナメ～ヨコ)→ヘラミガキ(ヨコ～ナナメ) 内面 ヨコナデ	暗褐 普	粗 褐色粒子 雲母多	2/3	
5	土師器 高坏	(8.40)×(9.00)×7.70 外面 ヘラケズリ→ヘラミガキ(ヨコ～ナナメ) 内面 ヨコナデ	暗赤褐 普	明赤褐	2/3	
6	土師器 高坏	14.2×17.4×9.90 外面 ヘラミガキ(ナナメ～タテ) 内面 ヘラミガキ(ヨコ～ナナメ)	暗橙黄 硬	密 砂粒少	完形	

A005ab

検出地区 G5-85G

時期 古墳前期

覆土 色調を基本に6層に分層。床面頂上層については住居建替え時の貼床のセクションである。建替え後の埋没については部分的に焼土を検出しているが、概ね自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて小破片が比較的多く出土。

表32 A005ab遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土錘	長さ4.20×径4.00×孔径1.00 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラナデ			1/3	
2	土師器	—×—×—(3.60) 外面 タテ～ナナメ方向 ヘラミガキ 内面 ヘラナデ?	明橙褐 普	砂粒多 粗	脚部 1/4	
3	土師器	(17.0)×—×(5.00) 外面 ナデ	暗褐 軟	砂粒多	口縁部 1/4	
4	弥生	—×—×— 外面 口縁部-接合部網目状撚系文。 複合部下端にハケ状工具による刻み目 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	明褐 軟	砂粒多 粗	口縁 部片	複合口縁部 赤彩
5	土師器 鉢	8.00×—×— 外面 ナナメヘラミガキ 内面 ヨコヘラミガキ	明褐 硬	小石多 密	略完形	赤彩
6	土師器	—×(7.00)×(2.20) 外面 (ヨコ～ナナメ)ヘラケズリ後(ナナメ)ヘラミガキ 内面 ナデ	明褐 硬	砂粒多 粗	底部 1/4	

A006ab

検出地区 G5-77G

時期 古墳前期

遺構 a住貼床下からb住を検出。建替え住居である。

覆土 色調を基本に11層に分層。a住床面直上には広範囲に焼土層および、炭化物を検出。人為的堆積の後自然堆積が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて少量出土。

表33 A006ab遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 器台	8.00×—×(6.20) 外面 ヘラケズリ→ミガキ?(不明瞭上部孔3個) 内面 器受部ヨコナデ→ヘラミガキ 台部ナナメヘラケズリ	暗赤褐硬	砂粒多 密	2/3	台部下半欠損
2	土師器 高坏	(22.0)×—×— 外面 口縁部-ヨコナデ ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面 ヨコナデ ヘラミガキ	暗赤褐 普	砂粒多 粗	口縁 1/4	
3	土師器 高坏	—×—×(2.30) 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ ナデ	明黄 軟	砂粒多 粗	坏部 1/4	
4	石器 磨石	長さ11.4×幅8.00×厚さ4.90 重量687.3g				硬砂岩
5	土師器 土錘	長さ6.20×径3.40×孔径1.00 外面 ヘラミガキ				
6	石器 石皿	長さ10.5×幅17.1×厚さ5.50 重量1115.0g				砂岩
7	土師器 高坏	—×9.00×(3.80) 外面 ヘラケズリ→一部ヘラミガキ 内面 ヘラケズリ	明褐 普	砂粒少	1/2	

8	土師器 甕	—×8.90×(3.80) 外面 タテヘラケズリ→ナデ 内面 ヨコナデ	明褐 硬	砂粒少 粗	台部 1/4	台付甕
9	土師器	—×7.20×3.80 外面 ヘラケズリ後ハケメナデ 内面 ヘラケズリ ナデ 口縁透し孔2カ所	明褐 硬	砂粒少	底部	
10	土師器 ミニチュ ア土器	(8.00)×(8.00)×2.20 外面 ナデ ヘラミガキ 底面—ヘラミガキ 指頭圧痕 内面 ヘラミガキ(ヨコ)	明褐 硬	砂粒少	1/2	赤彩
11	土師器 甕	—×6.00×5.60 外面 タテヘラケズリ後ミガキ 内面 ヘラミガキ	明褐 軟	砂粒少 粗	底部 1/4	
12	土師器 甕	24.0×—×— 外面 ヘラケズリ→ヨコナデ 内面 ヨコナデ	明黄 軟	砂粒少 粗	口縁部 1/4	

A007

検出地区 G5-68G

時期 古墳前期

覆土 色調を基本に13層に分層。上・中層にて焼土を検出されているが、概ね自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて小破片が少量出土。

表34 A007遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 ミニチュ ア土器	—×5.40×(2.70) 外面 ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	明黄褐 軟	砂粒多	底部 1/4	
2	土師器 器台	—×10.35×(5.00) 外面 ヘラミガキ (タテ)ヨコナデ 内面 ヘラケズリ (ナナメ)ヨコナデ	明赤褐 軟	砂粒少 粗	台部 1/2	
3	土師器 紡錘車	長さ5.10×径6.00×孔径0.60				

A008

検出地区 G5-74G

時期 古墳前期

覆土 色調を基本に7層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて少量出土。

表35 A008遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	—×8.00×(2.80) 外面 ヘラミガキ 内面 器面の剥離著しく不明	暗赤褐 軟	小石多 粗	底部 1/4	
2	土師器 高坏	—×—×(8.00) 外面 ヘラケズリ→ヘラミガキ(タテ~ナナメ方向) 内面 器面の剥離著しく不明	暗赤橙褐 普	小石多 粗	2/3	赤彩

A009

検出地区 G5-73G

時 期 古墳前期

覆 土 色調を基本に11層に分層。床面直上で多量の焼土・炭化物が広範囲に検出されている。

人為的な堆積の後、自然堆積が想定される。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて少量出土。

表36 A009遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 ミニチュ ア土器	7.50×4.30×5.60 外面 (ヨコ～ナナメ)ヘラケズリ (タテ)ヘラミガキ 内面 ヘラケズリ ヨコナデ	暗赤褐 硬	砂粒 赤色 粒子多	完形	
2	土師器 ミニチュ ア土器	－×4.70×1.00 底面に太沈線施文	暗褐 硬	砂粒多 粗	底部	
3	土師器 台付甕	－×9.00×(8.00) 外面 タテ方向 ヘラミガキ 内面 ヨコ方向 ヘラケズリ	暗赤褐 普	砂粒少	台部 1/4	
4	土師器 器台	6.80×11.0×9.40 外面 坏部ヨコナデ 脚部→タテヘラミガキ～ヨコミガキ 内面 ヨコナデ 坏部～坏部中央に先端に刻み目が施された突帯をも つ。坏部下段にも刻み目 脚部～透3個	暗黄黒 硬	砂粒少	底部 2/3	赤彩
5	土師器 高坏	17.5×－×(7.0) 外面 口縁ヨコナデ タテ方向ヘラミガキ 内面 ヨコナデ ヨコ～ナナメ方向ヘラミガキ	暗赤褐 良	砂粒少	1/2	赤彩
6	土師器 甕	－×－×(15.5) 外面 ハケ→タテ方向ヘラミガキ 内面 ヨコヘラナデ	明赤褐 普	砂粒多	胴部 1/4	赤彩

A028

検出地区 H5-20G

時 期 古墳前期

覆 土 色調を基本に9層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 中層から小破片が比較的多量に出土。

A032

検出地区 H5-47G

時 期 古墳前期～中期

覆 土 色調を基本に11層に分層。床面直上から覆土下層にかけて、焼土を広範囲に検出。人為的堆積の後、自然堆積が想定される。

遺物出土状況 覆土中層から比較的多量に出土。

表37 A032遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	－×9.00×(6.50) 外面 弱いハケ後ヘラナデ 内面 ヘラナデ	暗褐 普	砂粒多	台部	台付甕

2	土師器 甕	—×12.0×(4.8) 外面 タテ～ナナメ方向 細かいハケメ 内面 ヘラナデ	明赤黄褐 軟	小石少 粗	台部 1/4	台付甕
3	土師器 甕	—×(11.6)×4.9 外面 口縁～タテ粗いハケメ・ヨコナデ 内面 ヨコナデ	明赤黄褐 軟	砂粒少	台部 1/4	台付甕
4	土師器 甕	19.0×—×(7.00) 外面 口縁～タテ～ナナメ方向 ヘラナデ→ヨコナデ 胴部～ハケメ 内面 ヘラナデ ヨコナデ	暗赤褐 硬	砂粒少	口縁片 1/4	
5	土師器 甕	10.0×—×(4.40) 外面 口唇部～棒状工具による押圧 口縁部～指頭圧痕(調整) 内面 ハケメ様状のヘラナデ?	暗赤橙褐 普	小石少	口縁部 1/4	頸部～胴部 ハケメ
6	土師器 甕	(24.0)×—×(5.60) 外面 ナナメ～ヨコ方向ヘラナデ ハケメ 内面 ヨコ方向ヘラナデ	暗橙褐 石粒少	砂粒少	口縁部 1/4	
7	土師器 甕	(22.0)×—×(6.40) 外面 口唇部～棒状工具による押圧 口縁部～指頭圧痕 内面 ヘラナデ	明橙褐 普	小石多 粗	口縁片 1/4	
8	土師器 甕	(20.0)×—×(4.70) 外面 口唇部～ヨコナデ ナナメ～タテ方向 ハケメ ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	暗橙褐 硬	砂粒少	口縁部 1/4	
9	土師器 甕	(20.0)×—×(5.80) 外面 口唇部～ヨコナデ ナナメヨコ方向 ハケメ 内面 ナナメ～ヨコ方向ヘラナデ	暗橙褐 硬	砂粒少	口縁部 1/4	外面スス付着
10	弥生 甕	(18.0)×—×(6.10) 外面 口縁部～LR縄文、下端に刻み目 タテヘラミガキ 内面 器面の剥離著しく不明	明橙褐 普	砂粒多	口縁部 1/4	折返し口縁
11	土師器 壺	—×—×(5.00) 外面 ハケメ 胴部～ヘラナデ・ヨコミガキ 内面 頸部～ハケ 胴部～ヘラケズリ	明褐 軟	砂粒多	頸部 胴部 1/4	粘土帯貼付

A037

検出地区 H5-75G

時期 古墳中期

覆土 色調を基本に9層に分層。自然堆積が考えられる。

遺物出土状況 覆土下層から中層にかけて少量出土。

表38 A037遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 高坏	18.0×—×5.40 外面 ヨコナデ・ヘラナデ 下半ヘラケズリ 内面 ヨコナデ・ヘラナデ	明赤褐 硬	砂粒少	口縁～ 胴部 1/4	黒斑
2	土師器 高坏	20.2×—×7.40 外面 口唇部～ヨコナデ 坏部～ヘラミガキ 内面 口唇部～ヨコナデ 坏部～ヘラミガキ	暗赤褐 軟	砂粒少	口縁～ 坏部 2/3	赤彩
3	土師器 高坏	22.0×—×8.20 外面 口唇部～ヨコナデ 坏部～タテヘラミガキ 脚部近くヨコヘラミガキ 内面 口唇部～ヨコナデ タテヘラミガキ一部ナナメ	暗褐 軟	砂粒少	口縁～ 杯部	赤彩
4	土師器 高坏	—×15.4×10.7 外面 タテ方向ヘラケズリ→ヨコ方向ヘラナデ・ヨコナデ 内面 ハケメ 輪積痕有り	明赤褐 硬	砂粒少	脚部 2/3	

第4節 奈良・平安時代

竪穴住居跡

A010

検出地区 G5-35G

遺構 依存状況悪く立ち上がりはわずかに残るのみ。

覆土 色調を基本に6層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土下層にかけて小破片が出土。遺構依存状況が悪いわりには比較的多く出土。

表39 A010遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 高台付坏	—×—×(1.50) 外面 ロクロ成形 ナデ 内面 ロクロ成形 密なミガキ 底部一回転糸切り	茶褐 黒良	石英 長石 微	坏部 底部	内黒
2	土師器 甕	(21.0)×—×(27.9) 外面 胴上部—タテヘラケズリ 胴下部—ヨコヘラケズリ 内面 ヨコナデ	㊦暗茶褐 ㊦暗茶灰 褐良	雲母 石英 礫 微	1/3	
3	土師器 甕	(19.0)×—×(7.40) 外面 タテヘラケズリ 内面 胴部—ヨコナデ	灰褐 良	雲母 黒色 微	口縁 部片	内側輪積痕
4	土師器 甕	(20.2)×—×(9.20) 外面 タテヘラケズリ 内面 ヨコナデ	㊦暗赤褐 ㊦茶褐 良	雲母 長石 石英 微	口縁 部片	

A012

検出地区 H5-4G

遺構 時期不明の土坑と重複関係にあり、本住居跡のほうが古い。

覆土 色調を基本に5層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 覆土下層から上層にかけて小破片が少量出土したのみ。

表40 A012遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	—×(7.40)×(1.90) 外面 ロクロ成形 体部下端—静止ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズリ 静止ヘラケズリ	青灰 良	雲母 石英 長石 微	底部 1/3	
2	須恵器 坏	(13.8)×—×(4.20) 外面 ロクロ成形 体部下端—回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	青灰白 良	雲母 石英 長石 微	口縁 部片	
3	須恵器 蓋	(15.0)×—×2.70 外面 ロクロ成形 胴上部—回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 磨耗されている。墨少量附着 転用硯か?	青灰白 良	石英 長石 微	2/3	
4	土師器 甕	—×—×(15.9) 外面 胴下部—ヨコヘラケズリ 胴部—タテヘラミガキ 内面 ナデ 輪積み痕有	茶褐 良	雲母 石英 長石 微	胴部 1/5	

A014

検出地区 H5-21G

遺構 時期不明の土坑と重複関係にあり、本住居跡のほうが古い。柱穴の状況を判断して、拡張された住居跡と考えられる。

覆土 色調を基本に11層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて土器小破片を中心に出土。

表41 A014遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	—×7.80×(2.40) 外面 ロクロ成形 体部—下端回転ヘラケズリ 全面ヘラケズリのため 切り離し不明 内面 ロクロ成形 底部—静止ヘラケズリ	㊦暗灰白 ㊧暗青灰 良	雲母 石英 長石 微	底部	
2	土師器 坏	(13.2)×—×3.80 外面 口縁部—ナデ体部全面にヨコヘラケズリ 底部—全面ヘラヘラケズリのため切り離し不明 内面 体部密なヨコヘラミガキ 底部—静止ヘラケズリ	暗茶褐 良	雲母 微	2/3	
3	須恵器 坏	—×(8.00)×(2.80) 外面 ロクロ成形 体部下端—静止ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部—回転ヘラケズリ 底部—静止ヘラケズリ	明灰黄 良	雲母 石英 長石 微	1/4	
4	須恵器 坏	14.5×8.60×3.90 外面 ロクロ成形 体部—下端回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部—静止ヘラケズリ全面ヘラケズリのため切り離し不明	青灰 良	雲母少 石英 長石 多	略完形	
5	須恵器 蓋	—×—×(2.30) 外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	㊦明青灰 ㊧青灰 良	雲母 長石	略完形	
6	須恵器 坏	(14.2)×(8.40)×4.30 外面 ロクロ成形 体部—下端回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部—静止ヘラケズリ 底部欠損のため切り離し不明	㊦明青灰 ㊧明灰白 良	雲母 石英 長石 微	1/8	
7	土師器 支脚	上部径 (3.70)×3.50 下部径 (8.50)×(8.00) 器高19.4 重量900g	明灰白 褐			
8	土師器 小型甕	(7.40)–(4.90) 外面 胴上部—ナナメヘラケズリ 内面 ヨコナデ				
9	土師器 甕	(20.0)×—(6.80) 外面 胴上部—タテヘラケズリ 内面 ヨコナデ	㊦暗茶褐 ㊧暗茶褐 良	雲母 石英 微		
10	土師器 小型甕	(11.6)×7.40×11.8 外面 胴上部—タテヘラケズリ 胴下部—ナナメヘラケズリ 内面 ヘラナデ 底部—静止ヘラケズリ	㊦暗灰赤 褐良 ㊧暗赤褐	雲母 石英 長石 微		

A019

検出地区 G5-10G

遺構 南コーナーにカマドを持つ住居跡。

覆土 色調を基本に12層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 覆土中から小破片が数点出土したのみ。

A021

検出地区 G5-28G

遺構 南コーナーにカマドを持つ住居跡。

覆土 色調を基本に8層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて小破片が比較的多く出土。

表42 A021遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	(13.4)×(7.80)×3.90 外面 ロクロ成形 体部下端-静止ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部-静止ヘラケズリ 底部欠損のため切り離し不明	暗灰 良	長石中	1/4	
2	土師器 坏	12.5×8.80×3.80 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 内外面体部スス付着	赤茶褐 良	雲母 石英 微	完形	灯明皿 底部外面に線刻 「×」
3	土師器 甕	14.4×-×(5.60) 外面 胴部-タテヘラケズリ 内面 ヨコナデ	㊦暗褐 ㊧黒茶 褐良	雲母 石英 微	口縁 1/2	
4	土師器 小型甕	(15.6)×(6.20)×12.9 外面 胴上部-タテヘラケズリ 胴上部-ヨコヘラケズリ 内面 ヨコナデ	㊦暗褐 ㊧黒茶 褐良	雲母 石英 長石 微	2/3	

A022

検出地区 G5-8G

覆土 色調を基本に11層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 覆土中層から上層にかけて少量出土。カマド内から甕の完形が出土。

表43 A022遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	(22.0)×-×(7.70) 外面 ナデ 内面 ヨコナデ	㊦明茶褐 ㊧茶 良	雲母石英 少 長石微	口縁 1/4	
2	土師器 小型甕	15.4×8.70×18.7 外面 胴上部-ヨコヘラケズリ 胴下部-斜ヨコヘラケズリ 内面 ナデ 底部ヘラケズリ 静止	赤褐 良	雲母 石英 微	略 完形	

A024

検出地区 G5-6G

覆土 色調を基本に5層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土下層にかけて少量出土。

表44 A024遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(14.3)×(10.0)×4.70 外面 ロクロ成形 体部-ヨコヘラケズリ 密なミガキ 内面 ロクロ成形 密なミガキ 底部-静止ヘラケズリ切り離し不明	明灰茶褐 良	雲母 石英 長石 微	1/2	体部底部内外面 スス付着 灯明皿

2	須恵器 坏	13.4×8.50×4.10 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ	④青灰 ④明灰 良	雲母 石英 長石 微	略完形	
3	須恵器 坏	14.5×8.90×4.20 全面ヘラケズリのため切り離し不明 外面 ロクロ成形 体部下端ヘラケズリ 底部一静止ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 体部下端ヘラケズリ	④暗灰白 ④灰黄 良	雲母中 石英 長石 少	完形	底部内面 スス附着

A025

検出地区 I5-44G

遺構 コーナーカマドの住居跡である。

覆土 色調を基本に7層に分層。覆土中層にかけて若干の焼土を検出しているが概ね堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土下層にかけて少量出土。須恵器の墨書土器出土。

表45 A025遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	—×7.40×(1.20) 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズリ	青灰 良	石英 長石 微	底部	
2	土師器 坏	15.0×—×3.70 全面ヘラケズリのため切り離し不明 外面 体部ヨコヘラケズリ 粗いヘラミガキ 内面 密なミガキ 体部内面にスス附着 底部ヘラケズリ	④茶褐 ④赤茶褐 良	雲母少 石英 長石 微	1/2	灯明皿として使用
3	須恵器 蓋	16.2×—×(2.70) 外面 ロクロ成形 上部一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 内面一磨耗有 一部に墨附着 転用硯か?	④明青灰 ④青灰 良	雲母 石英 長石 微	2/3	墨書 体部外面 「加木有」
4	土師器 甕	16.0×—×(11.8) 外面 胴部一タテヘラケズリ 胴下部ヨコヘラケズリ 内面 ナデ	④赤茶褐 ④茶褐 良	雲母 石英 長石 微	1/5	

A026

検出地区 I5-33G

遺構 南側コーナーカマドの住居跡である。

覆土 色調を基本に9層に分層。概ね自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて少量出土。

表46 A026遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	(16.0)×—×(5.50) 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	④灰茶 ④青灰 良	石英 長石 微	口縁 部片	
2	須恵器 蓋	(16.4)×—×(2.10) 外面 ロクロ成形 全面回転ヘラケズリ 転用硯か? 内面 ロクロ成形 内面磨耗しているところ有 極少量の墨が附着	④明青灰 ④青灰 良	雲母 石英 長石 微	1/3	
3	土師器 甕	17.2×—×(17.6) 外面 胴下部ヨコヘラケズリ 胴上部ヨコヘラナデ 内面 胴部ヨコヘラナデ	茶褐 良	雲母 石英 長石 微	底部 欠損	

A027

検出地区 I5-32G

遺構 コーナーカマドの住居跡である。

覆土 色調を基本に6層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて少量出土。

表47 A027遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	14.0×7.80×4.30 外面 ロクロ成形 全面ヘラケズリにため切り離し不明 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部-静止ヘラケズリ	明青灰 良	雲母 石英 長石 微	略完形	灯明皿 口縁内外面 スス付着
2	須恵器 坏	13.3×7.80×4.30 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部-静止ヘラケズリ 全面ヘラケズリ	明青灰 良	雲母 石英 長石 微	完形	切り離不明 灯明皿体部内面 にスス付着
3	須恵器 坏	13.4×8.00×4.00 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズリ 静止ヘラケズリ	青灰 良	雲母 石英 長石 微	完形	灯明皿 内面口 縁部より体部 にかけてスス付着
4	土師器 高坏	9.10×7.90×11.2 外面 口縁部-ヨコナデ 坏部下半~脚部手づくね 内面 ヘラケズリ→ヨコナデ	明橙褐	砂粒少	完形	

A034

検出地区 H5-16G

遺構 コーナーカマドの住居跡である。

覆土 色調を基本に11層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて少量出土。墨書土器出土。

表48 A034遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	12.1×5.50×3.70 全面ヘラケズリのため切り離し不明 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 内面スス付着 灯明皿として使用 内面 ロクロ成形 底部-静止ヘラケズリ	茶褐 良	雲母 石英 微	略完形	墨書底部外面 「竹野」
2	土師器 坏	12.9×8.40×4.20 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 一回転ヘラケズリ	㊦暗赤褐 ㊧暗茶褐 良	雲母 石英 微	略完形	灯明皿 内外面スス付着
3	土師器 坏	14.4×8.60×4.40 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラ切り	㊦暗茶褐 ㊧茶褐 良	雲母 石英 微	1/2	
4	須恵器 坏	12.8×7.80×4.00 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラ切り 静止ヘラケズリ	青灰 良	雲母 石英 長石 微	略完形	
5	土師器 蓋	—×—×— 外面 ロクロ成形 体部-ヘラケズリ 密なヘラミガキ 内面 ロクロ成形 密なヘラミガキ	㊦暗茶褐 ㊧黒 良	雲母 微	体部片	墨書 体部外面二本線 文字ではない

A039

検出地区 H6-60G

覆土 色調を基本に9層に分層。床面直上層に焼土、炭化材を多量に含む層を広範囲に検出。人為的堆積の後、自然堆積が想定される。

遺物出土状況 床直上から覆土上層にかけて多量に出土。墨書土器出土。カマド2基出土。

表49 A039遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	18.0×-×(34.8) 外面 胴部-タテヘラケズリ 胴部-ナナメヘラケズリ	褐 良	雲母 石英 微	1/2	
2	土師器 坏	14.2×7.50×3.90 外面 ロクロ成形 体部下端-回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 密なヘラミガキ 底部-回転糸切り ヘラケズリ	橙 良	雲母 石英 長石 微	略完形	
3	須恵器 坏	-×7.40×(3.00) 外面 ロクロ成形 体部下端-回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部-回転ヘラケズリ 切り離し不明	灰 オリーブ	雲母 石英 微	底部	スス附着 灯明の芯痕有
4	土師器 坏	-×8.40×(2.40) 外面 ロクロ成形 全面回転ヘラケズリのため 切り離し不明 底部-回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 内面部分的に剥離	⑧にぶい褐 ⑨暗褐 良	雲母多 石英微	底部 1/2	
5	土師器 坏	14.7×8.00×4.40 ヘラ書-底部外面「//」 外面 ロクロ成形 体部下端-回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 密なミガキ 底部-回転糸切り 回転ヘラケズリ	明褐 良	雲母 石英 微	略完形	墨書 体部外面 底部内面「西」
6	土師器 甕	(20.4)×-×(10.1) 外面 タテヘラケズリ 内面 ヨコヘラナデ	⑧赤茶褐 ⑨暗茶褐 良	雲母 石英 微	口縁 部片	
7	須恵器 甕	(2.50)×(16.4)×26.2 外面 胴部タタキ 胴下部-ヨコヘラケズリ 内面 当具痕 底部-ナデ?	⑧にぶい褐 ⑨褐良	雲母 石英 微	1/3	

A040

検出地区 H7-48G

遺構 遺構の依存状況は悪く立ち上がりはわずかに検出されたのみであった。

覆土 色調を基本に3層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上に小破片を中心に比較的多量に出土。

表50 A040遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	-×(5.00)×(2.10) 外面 ロクロ成形 体部下端-静止ヘラケズリ 底部-回転ヘラ切り 内面 ロクロ成形 密なヘラミガキ 底部-静止ヘラケズリ	⑧褐 ⑨黒褐 良	雲母 石英 微	底部	
2	土師器 坏	10.1×4.50×2.90 外面 ロクロ成形 底部-回転糸切り 内面 ロクロ成形のあとナデ成形有?	⑧⑨赤褐 ~赤茶褐 良	雲母 石英 長石 微	略完形	
3	土師器 高台付坏	-×-×(3.60) 外面 ロクロ成形 台部径8.30 内面 ロクロ成形 底部-回転ヘラ切り 高台部ナデ 貼り付け	褐 良	雲母 石英 微	高台部	

4	土師器 坏	(16.4)×6.20×5.10 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 密なミガキ 底部一回転糸切り	灰茶褐 良	雲母 長石 微	1/3	
5	土師器 坏	(17.2)×-×(4.40) 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 密なミガキ	褐 良	雲母 石英 長石 微	口縁 部片	
6	土師器 甕	(23.8)×-×(4.70) 外面 タテヘラケズリ	黒茶褐 良	雲母 石英 微	口縁 1/6	
7	土師器 甕	-×(1.20)×(10.9) 外面 胴部-ヨコヘラケズリ斜位の粗いミガキ 内面 ヨコナデ 底部一回転糸切り 静止ヘラケズリ	暗茶褐	雲母 石英 微	胴下部 1/2	
8	土師器 甕	-×(9.80)×(17.2) 外面 胴部-タテヘラケズリ 内面 胴部-ヨコナデ 底部-静止ヘラケズリ	赤褐 良	雲母 石英 長石 微		

A041

検出地区 H7-45G

覆 土 色調を基本に11層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて多量に出土、特にカマド周辺に出土。墨書土器出土。鉄製品出土。

表51 A041遺物観察表

(単位cm)

No	種 別 器 形	容 量 口径×底径×器高 成 形・調 整 等 の 特 徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	土師器 坏	-×-×- 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	㊸暗茶褐 ㊹赤褐 良	雲母 石英 微	口縁 部片	墨書 体部外面 「寿」
2	土師器 坏	-×-×- 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 密なミガキ 黒色	㊸褐 ㊹黒 良	雲母 長石 微	口縁 部片	墨書 体部外面 「人」
3	土師器 坏	11.9×5.60×4.60 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 全面ヘラケズリのため切り離し不明 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズ 灯明皿として使用	㊸茶褐 ㊹明茶褐 良	雲母 長石 微	略完型	墨書 体部外面 「□」 内面スス付着
4	土師器 坏	(14.6)×7.90×4.30 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り 内面 ロクロ成形 全体に密なミガキ 黒色 回転ヘラケズリ	㊸茶褐 ㊹黒 良	雲母 長石 微	1/3	
5	土師器 坏	13.0×6.30×3.80 底部一回転ヘラケズリ 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 全面回転ヘラケズリのため切り離し不明	㊸褐 ㊹明褐 良	雲母少 石英多	略完型	
6	土師器 坏	(15.4)×(7.40)×3.30 外面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	㊸明茶褐 ㊹赤茶褐 良	雲母 微	1/2	
7	土師器 坏	13.1×7.30×3.80 底部-静止ヘラケズ 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 全面ヘラケズリのため切り離し不明	㊸赤褐 ㊹暗茶褐 良	雲母微 長石中 石英少	略完型	体部外面 スス付着
8	須恵器 坏	12.8×6.50×3.60 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 底部中央部欠損のため切り離し不明 内面 ロクロ成形 底部-静止ヘラケズ	灰 良	石英微 長石少	略完型	
9	土師器 坏	(11.6)×6.80×4.00 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 全面ヘラケズリのため切り離し不明 底部一回転ヘラケズ 内面 ロクロ成形	橙 良	雲母 長石 微	1/4	

10	土師器 坏	13.6×6.60×4.00 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	⑧明褐 ⑨橙 良	雲母 石英 長石 微	略完型	
11	土師器 坏	(13.2)×6.30×4.20 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	橙 良	雲母 石英 長石 微	1/6	
12	土師器 坏	15.2×6.80×4.80 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 ヨコナメ密なミガキ 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	⑧明褐～ にぶい褐 ⑨明褐 良	雲母	略完型	
13	土師器 坏	12.4×7.00×4.00 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	茶褐 良	雲母 石英 長石 微	完形	墨書 体部外面 体部～底部 底部「□」
14	土師器 小型甕	13.9×9.00×15.2 外面 胴部一タテヘラケズリ 胴下部一ヨコヘラケズリ 内面 ヨコナデ 底部一回転糸切り 静止ヘラケズリ	暗赤茶褐 良	雲母 石英 長石 微	略完型	
15	土師器 小型甕	15.5×8.60×18.1 外面 胴上部一タテヘラケズリ 胴下部一ヨコヘラケズリ 内面 胴部一当具痕 底部一静止ヘラケズリ	暗茶褐 良	雲母 石英 長石 微	完形	
16	土師器 甕	(18.4)×ー×(24.5) 外面 胴部下ー横位のヘラケズリ 胴上部一ヘラケズリ 内面 横位のナデ	暗赤茶褐 良	雲母 石英 長石 微	2/3	
17	土師器 甕	(18.4)×ー×(11.0) 外面 胴部上端一縦位のヘラケズリ 内面 横位ナデ	⑧暗褐 ⑨灰茶褐	雲母 微	胴上部 1/3	
18	土師器 甕	(19.6)×ー×(11.0) 外面 胴部一縦位のヘラケズリ 内面 横位のナデ 縦位のナデ	⑧茶褐 ⑨暗茶褐 良	雲母 石英 微	口縁 1/2	
19	須恵器 甕	(21.0)×ー×(9.80) 外面 胴部一タタキ 胴下部一横位のヘラケズリ 内面 横位のナデ 当具痕	⑧明茶褐 ⑨茶褐 良	雲母 石英 微	胴部 1/3	
20	須恵器 甕	27.2×ー×(17.9) 外面 体部一タタキ 内面 当具痕	⑧黒灰褐 ⑨ 暗灰茶褐 良		1/2	
21	土師器 甕	ー×(11.8)×(22.8) 外面 胴部下ー横位のヘラケズリ 胴上部一縦位のヘラケズリ 内面 胴部一横位のナデ	⑧赤茶褐 ⑨赤茶褐 良	雲母 石英 長石 微	胴下部 1/3	
22	須恵器 甕	(24.0)×ー×(26.5) 外面 胴部一タタキ 胴下部一横位のヘラケズリ 内面 当具痕	青灰茶褐 良	雲母 石英 微	2/3	
23	鉄製品 刀子	(5.8)×0.9×0.1 3.9g				

A042

検出地区 H7-27G

覆土 色調を基本に5層に分層。一部攪乱されているものの自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて多量に出土。金属製品出土。

表52 A042遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	10.5×4.60×3.50 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り	赤褐～ 暗茶 良	雲母 石英 長石 微	略完形	

2	土師器 坏	(10.6)×4.70×2.60 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り	褐 良	雲母赤黒 白金雲母 微	1/3	
3	土師器 坏	(11.4)×(6.20)×2.70 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り	褐 良	雲母石英 微 金雲母中	1/3	
4	土師器 坏	(13.5)×5.00×4.70 体部内面-ミガキの上からナデ 外面 ロクロ成形 体部下端-静止ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 ヘラミガキ 底部一回転糸切り 静止ヘラケズリ	㊦暗赤茶 褐 ㊧暗赤褐 ~暗褐	雲母石英 微	1/4	底部-ケズリ 2方向
5	土師器 高台付坏	(14.0)×(6.20)×4.80 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 ヘラミガキ 底部-静止糸切り	㊦赤茶褐 ㊧茶褐~ 赤茶褐良	雲母石英 微	1/3	高台部欠損
6	土師器 坏	(15.0)×-×(5.30) 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ? 内面 ロクロ成形 密なヘラミガキ	㊦暗茶褐 ㊧茶褐 良	雲母石英 微	体部 1/5	高台部の坏?
7	土師器 高台付坏	14.2×-×5.90 台部径(7.90) 外面 ロクロ成形 高台部-貼付時のロクロ成形によるナデのため切り離し不明 内面 ロクロ成形 高台部-内面スス付着	㊦赤茶褐 ㊧茶褐~ 赤茶褐良	雲母石英 多	1/2	割れたあと逆さ にし灯明皿とし て使用
8	土師器 甕	(13.0)×-×(8.10) 外面 胴部-縦位のヘラケズリ 内面 輪積痕 胴部-横位のナデ	㊦暗赤褐 ㊧赤茶褐 良	雲母石英 微	胴上部 1/6	
9	土師器 甕	18.8×-×(9.50) 外面 胴部-縦位のヘラケズリ 内面 胴部-横位のナデ	暗赤褐 良	雲母石英 微	胴上部 1/3	
10	土師器 甕	(16.0)×-×(11.4) 外面 胴上部-縦位のヘラケズリ 内面 胴上部-横位のヘラナデ	㊦暗赤茶 褐 ㊧暗赤褐	雲母石英 長石微	胴上部 1/5	
11	土師器 甕	-×10.0×(8.20) 外面 胴下部-横位斜位ヘラケズリ 内面 胴部-横位のナデ	㊦暗褐 ㊧暗赤褐 良	雲母石英 長石微	胴上部 1/5	ヘラ書 (底部外面) 「□」九字切り
12	鉄滓	長さ(16.6)×幅(8.20)×厚さ(7.40) 重量506.4g				
13	土師器 甕	(21.6)×-×(12.4) 外面 胴上部-縦位のヘラケズリ 口縁-輪積痕有り 内面 胴上部-横位のナデ	㊦暗赤褐 ㊧暗褐 良	雲母赤少 石英長石 微	胴上部 1/5	
14	鉄製品 鎌	長さ(17.7)×幅3.00×厚さ0.20 重量78.6g<サビ含>				
15	土師器 甕	(21.9)×-×(14.1) 外面 縦位のヘラケズリ 内面 横位のナデ	㊦茶褐 ㊧赤茶褐 良	雲母 石英 長石 微	胴上部 1/3	
16	土師器 甕	(21.6)×-×(12.0) 外面 胴部-縦位のヘラケズリ 斜位のヘラミガキ 内面 横位のヘラケズリ	㊦㊧ 暗赤褐 良	雲母 石英 長石 微	胴上部 1/3	

A044

検出地区 H6-75G

覆土 色調を基本に10層に分層。一部攪乱されているものの自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて多量に出土。墨書土器出土。金属製品出土。

表53 A044遺物観察表

(単位cm)

No	種別器形	容量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	—×—×— 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	にぶい橙 良	雲母 石英 微	口縁 部片	墨書 (体部外面「□」)
2	土師器 坏	12.8×7.00×3.70 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	にぶい橙 良	雲母 微	略完形	
3	土師器 坏	(13.0)×6.70×4.10 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	橙 良	雲母 石英 長石 微	2/3	
4	土師器 坏	(15.2)×7.60×4.20 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 粗いヘラミガキ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズリ 切り離し不明	橙 良	雲母 石英 長石 微	1/6	全面回転 ヘラケズリ?
5	須恵器 坏	12.9×7.00×4.40 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズリ	㊦青灰～ 青灰橙 ㊧青灰良	雲母 長石 微 石英少	略完形	全面回転ヘラケ ズリの為切り離 し不明
6	須恵器 坏	13.5×6.80×4.30 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズリ	㊦青灰～ 青灰橙 ㊧青灰良	雲母中 長石少 石英微	完形	
7	須恵器 坏	13.2×7.00×4.40 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズリ	灰 良	雲母多 石英 長石 微	略完形	全面回転ヘラケ ズリの為切り離 し不明
8	土師器 坏	13.0×7.20×3.40 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転ヘラケズリ 切り離し不明	㊦赤茶褐 ㊧茶褐 良	雲母 石英 長石 微	坏部 1/2	底部ほとんど欠
9	土師器 坏	12.4×6.40×4.20 外面 ロクロ成形 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	明褐 良	雲母多 石英微	完形	墨書 体部外面「八」 体部内面「八」
10	須恵器 甕	—×(16.0)×(4.40) 外面 斜位のヘラケズリ 内面 横位のナデ	㊦暗茶灰褐 ㊧暗茶褐良	雲母 石英 長石 少	底部 1/2	
11	土師器 甕	—×(8.20)×(8.10) 外面 縦位のヘラケズリ 斜位のヘラケズリ 底部一静止ヘラケズリ 内面 横位のヘラナデ 斜位のヘラナデ	暗茶褐 良	雲母 石英 長石 微	胴下部 1/3	
12	土師器 甕	—×8.00×(15.5) 外面 縦位のヘラミガキ 内面 横位のナデ 輪積痕	㊦茶褐 ㊧暗茶褐 良	雲母少 長石 石英多	胴部～ 底部	
13	土師器 甕	(20.0)×—×(23.7) 外面 胴下部一縦位のヘラミガキ 内面 頸部一横位のナデ	㊦暗茶褐 ㊧暗黒茶褐 良	石英 長石 多 雲母少	口縁～ 胴部 1/3	
14	土師器 甕	(22.8)×—×(26.1) 外面 胴部下一横位ヘラケズリ 縦位ヘラミガキ 内面 胴部一横位ヘラナデ	㊦暗茶褐 ㊧茶褐 良	雲母 石英 長石 少	口縁～ 胴部 1/3	胴部に一部縦位 のナデ
15	土師器 甕	(20.2)×—×(26.7) 外面 胴下部一縦位のヘラミガキ 内面 頸部一横位のヘラナデ	茶褐 良	雲母 石英 長石 微	口縁～ 胴部 1/2	
16	鉄製品 鎌	長さ(2.50)×幅2.30×厚み0.20 重量4.8g(サビ含)				
17	鉄製品 鉄鎌	長さ(7.50)×鎌身幅4.00×鎌身長(1.60) 重量11.39g(サビ含)				
18	鉄製品 鎌	長さ(17.7)×幅2.20×厚み0.20 重量50.1g(サビ含)				
19	鉄製品 鎌	長さ(7.70)×幅3.50×厚み0.20 重量30.6g(サビ含)				

掘立柱建物跡

B001

検出地区 H7-59G

覆 土 明瞭な柱痕を全柱穴で確認。柱痕の周囲は暗褐色土と黒色土とを交互に積み重ねている。

遺物出土状況 出土していない。

土 坑

D001

検出地区 G5-94G

遺 構 隅丸方形のしっかりとした土坑。底部は平坦で壁際には壁柱穴を思わせる小穴を9基検出。壁は斜めに直線的に立ち上がる。時期用途不明の土坑と重複関係にあるが、本土坑の方が古い。

覆 土 色調を基本に4層に分層。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 床面直上から覆土上層にかけて小破片を中心に比較的多量に出土。

D004

検出地区 G5-58G

遺 構 不整円形のしっかりとした掘り込みを持つ土坑。底部はほぼ平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。

覆 土 色調を基本に11層に分層。土層観察から掘り返したことがわかる。全体に突き固められた土が多く、掘立柱建物の柱穴を連想させる。

遺物出土状況 覆土中から小破片が少量出土。

D012

検出地区 H5-65G

遺 構 隅丸方形のしっかりとした掘り込みを持つ土坑。底部はほぼ平坦で壁際に壁柱穴を思わせる小穴8基、。出入口施設を思わせる小穴2基検出。壁は斜めに立ち上がる。

覆 土 色調を基本に2層に分層。概ね自然堆積と考えられる。

D015

検出地区 H7-59G

遺 構 不整形の土坑でしっかりとした掘り込みを持つ土坑。底部は平坦でほぼ垂直に立ち上がる。階段状の出入口が敷設される。

覆 土 色調を基本に10層に分層。自然堆積と考えられる。

D017

検出地区 J6-3G

遺 構 不整楕円のプランで底部はほぼ平坦。底部南側にさらに一段浅い掘り込みがある。浅い掘り込みも不整楕円形のプランである。壁はほぼ垂直に立ち上がり一部オーバハンギミの部分がある。遺構の規模、形状、覆土の堆積状況から墓坑の可能性あり。

覆 土 色調を基本に10層に分層され人為的な埋戻しが想定される。

遺物出土状況 出土していない。

D020

検出地区 I6-44G

遺 構 不整円形のプランで底部はほぼ平坦。壁は斜めに立ち上がる。

覆 土 色調を基本に6層に分層され自然堆積と考えられる。

D024

検出地区 H7-49G
遺構 不整形のプランで底部はほぼ平坦。壁は急傾斜に立ち上がる。
覆土 色調を基本に6層に分層。覆土中に白色粘土を多量に検出。人為的堆積の後、自然堆積が想定される。

D025

検出地区 H7-27G
遺構 不整形のプランで底部は平坦。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
覆土 色調を基本に6層に分層。自然堆積と考えられる。
遺物出土状況 覆土中から小破片が数点出土したのみ。

D026

検出地区 H7-27G
遺構 円形のプランで底部は平坦。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
覆土 色調を基本に6層に分層。自然堆積と考えられる。
遺物出土状況 覆土中から小破片が数点出土したのみ。

D027

検出地区 H7-17G
遺構 円形のプランで底部は平坦。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
覆土 色調を基本に4層に分層。自然堆積と考えられる。

D009

検出地区 I6-88G
遺構 円形のプランで底部はほぼ平坦。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
覆土 色調を基本に8層に分層。自然堆積と考えられる。

第5節 中近世以降及び時期不明

土坑

D003

検出地区 G5-25G
遺構 隅丸方形のプランでしっかりと掘り込まれている。底部は平坦で中央部に長楕円形の小穴を検出。熱を受け赤化している部分が一部にあり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底部同様に赤化している部分がある。
覆土 色調を基本に3層に分層。自然堆積と考えられる。床面直上に焼土層を広範囲に検出。人為的堆積と考えられる。
遺物出土状況 覆土中から小破片1点出土。

溝

E001

検出地区 G5-52G 他
遺構 掘り込みの浅い断面U字形の溝。底面で硬化面をとところどころで検出している。
覆土 色調を基本に2層に分層。自然堆積と考えられる。
遺物出土状況 覆土中から小破片が少量出土。

第2章 時代別全遺構配置図

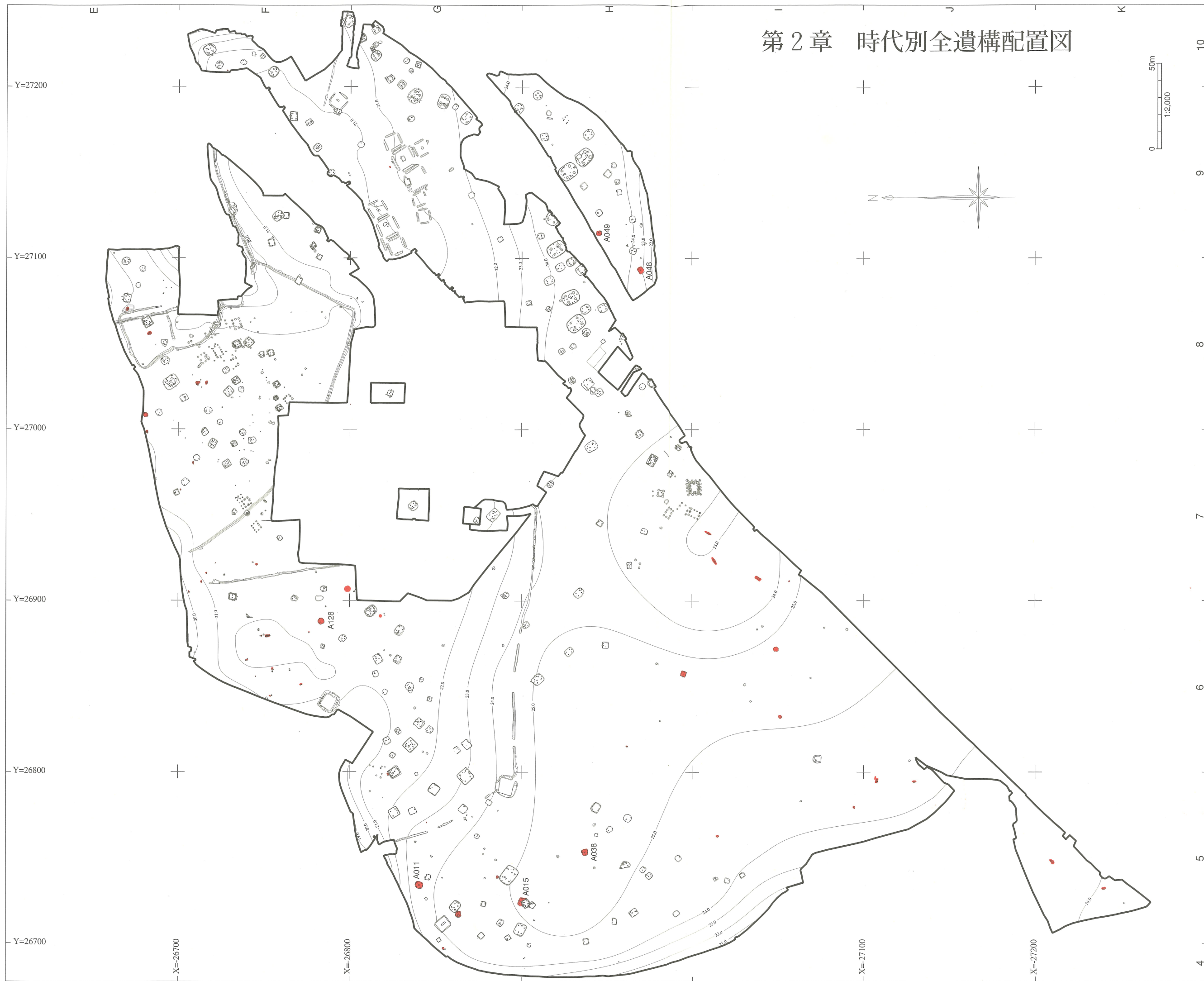


図1 縄文時代遺構配置図

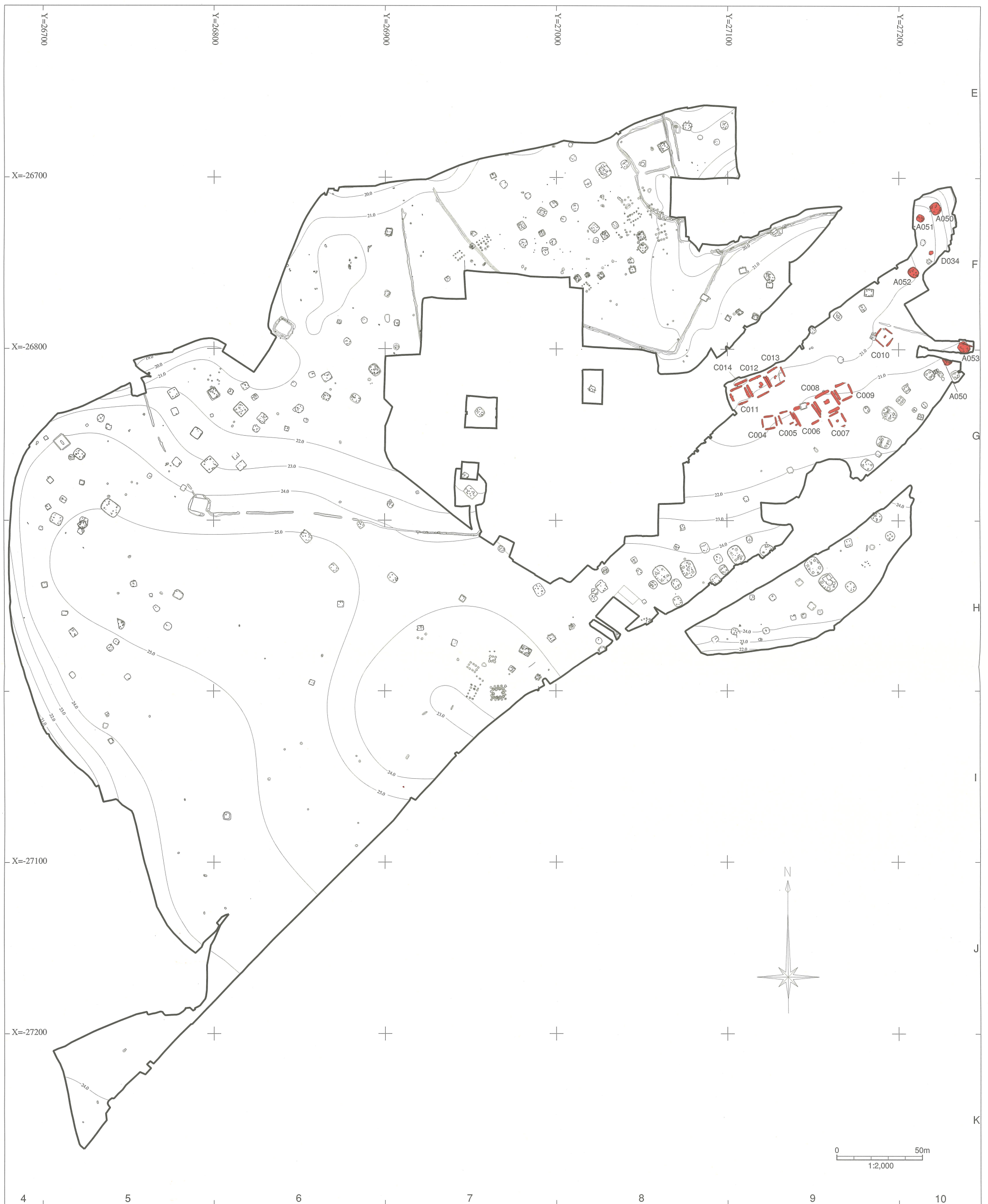


图2 弥生時代中期遺構配置図

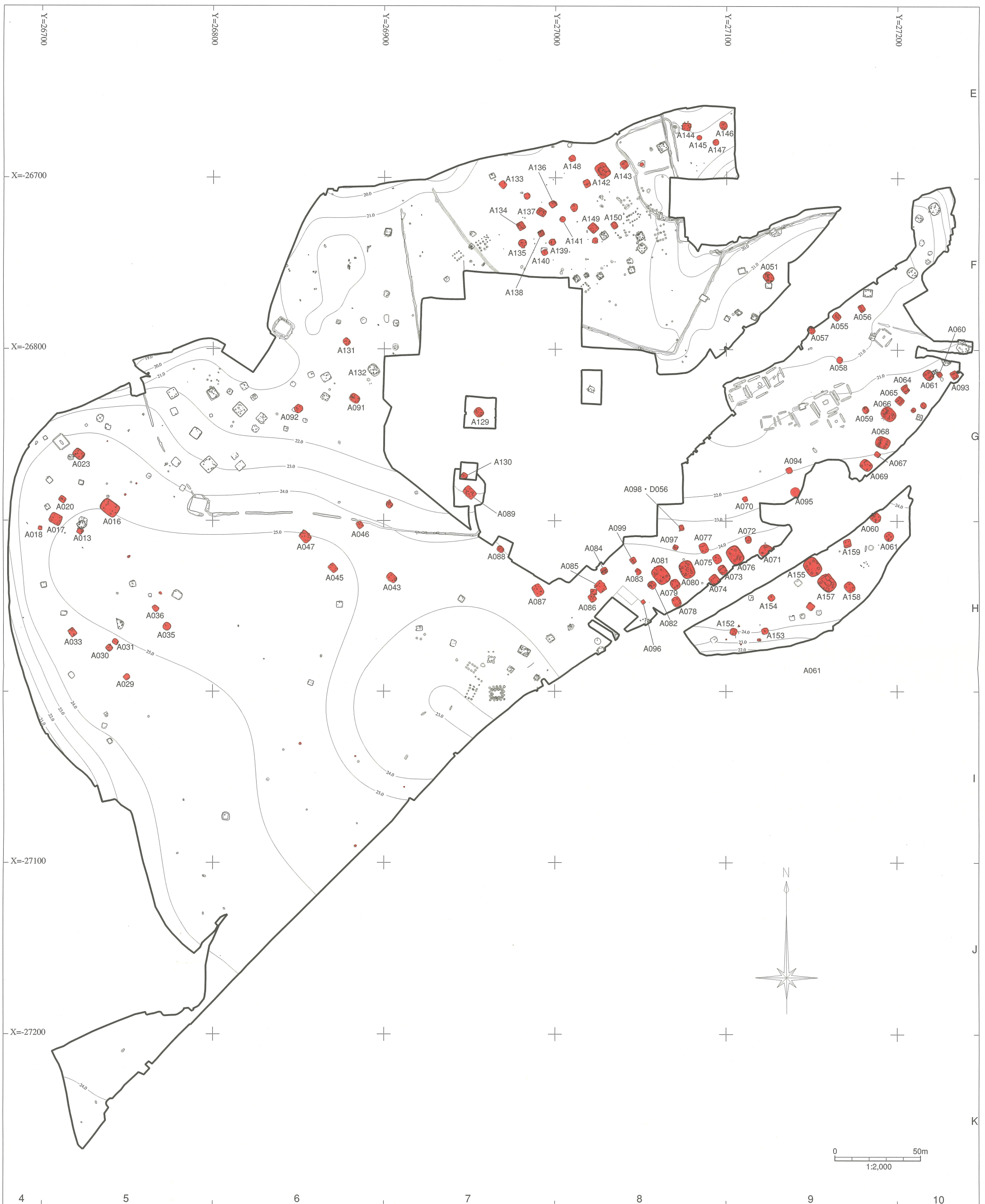


图3 弥生時代後期遺構配置図

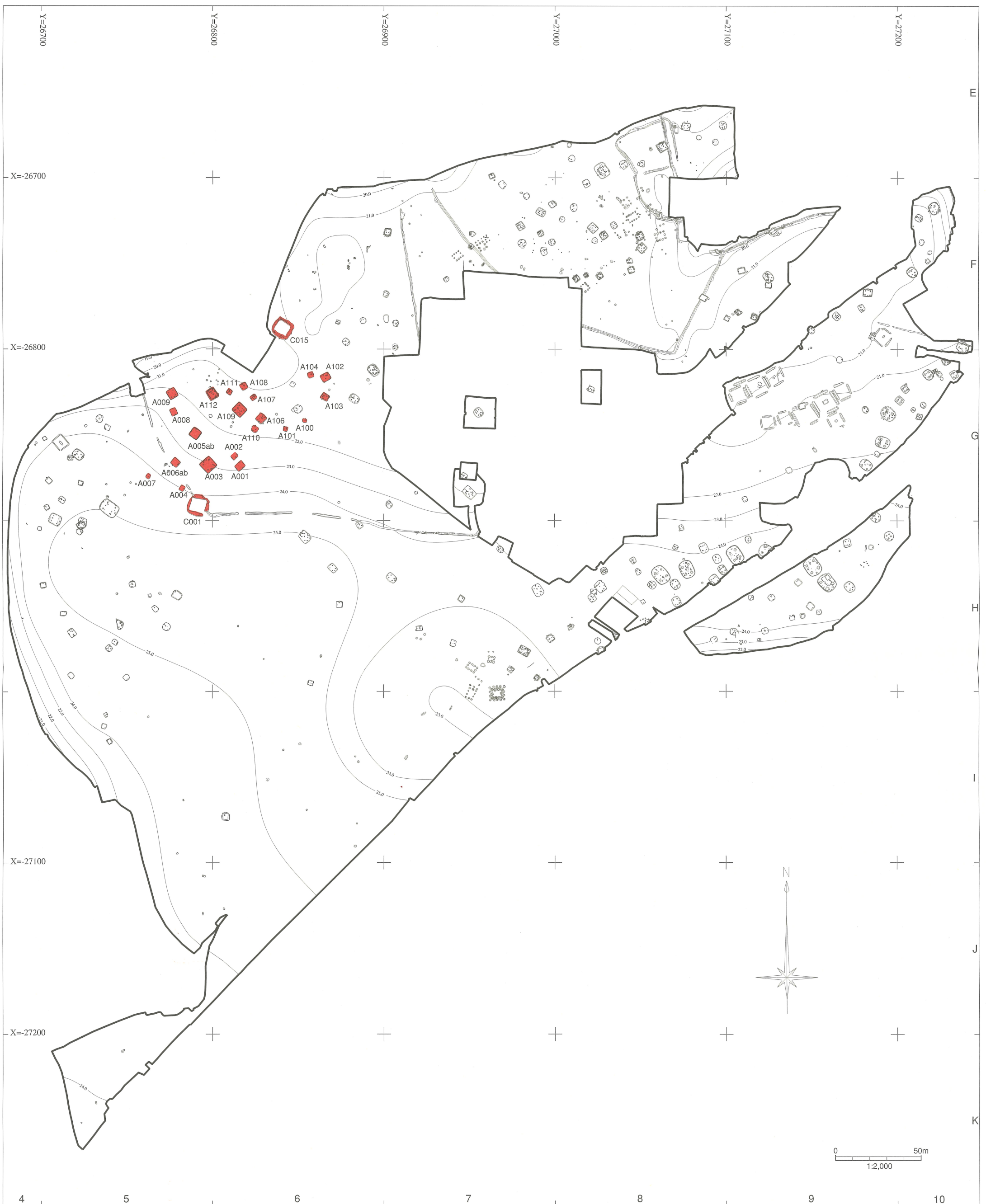


图4 古墳時代前期遺構配置図

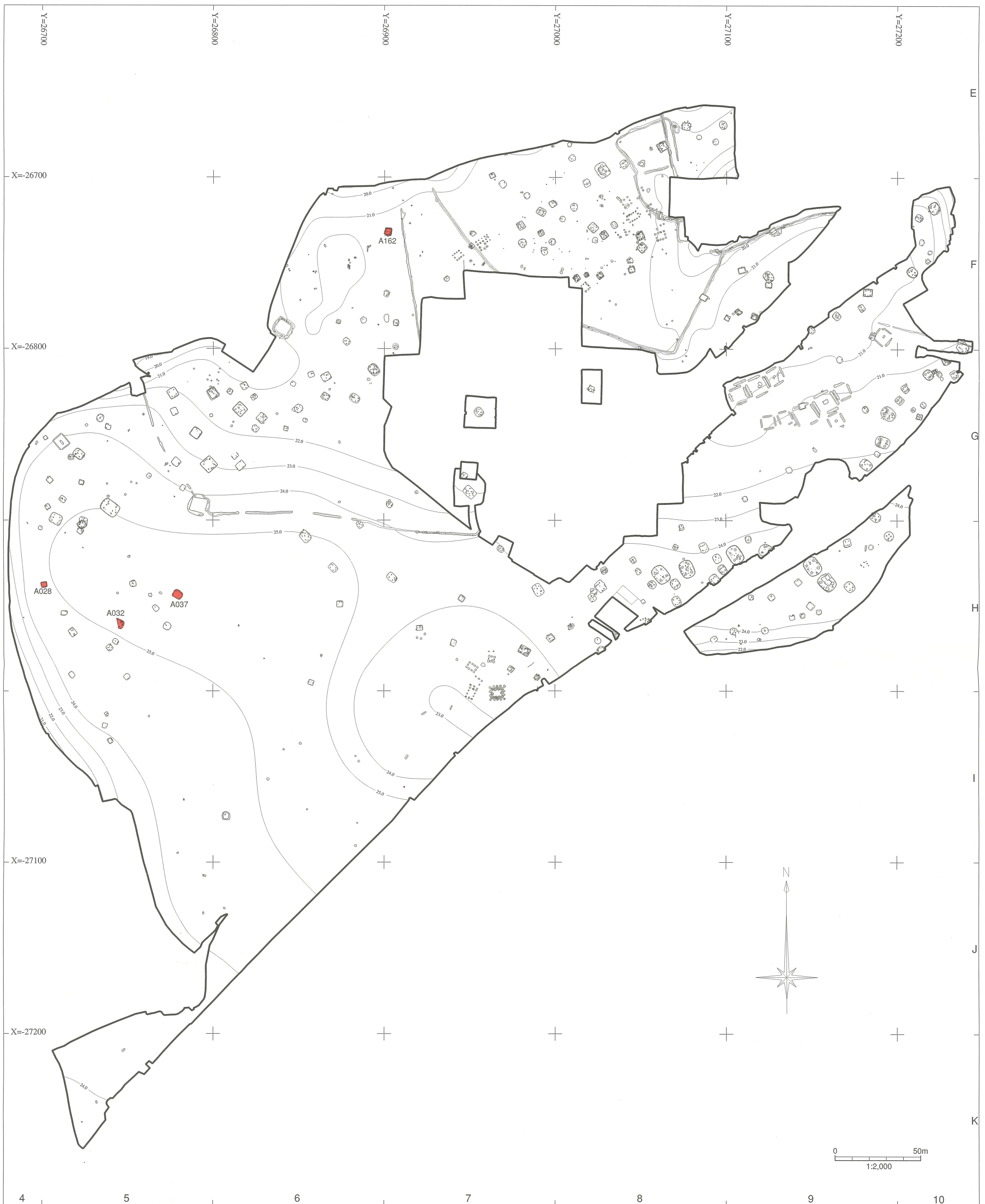


图5 古墳時代中期遺構配置図

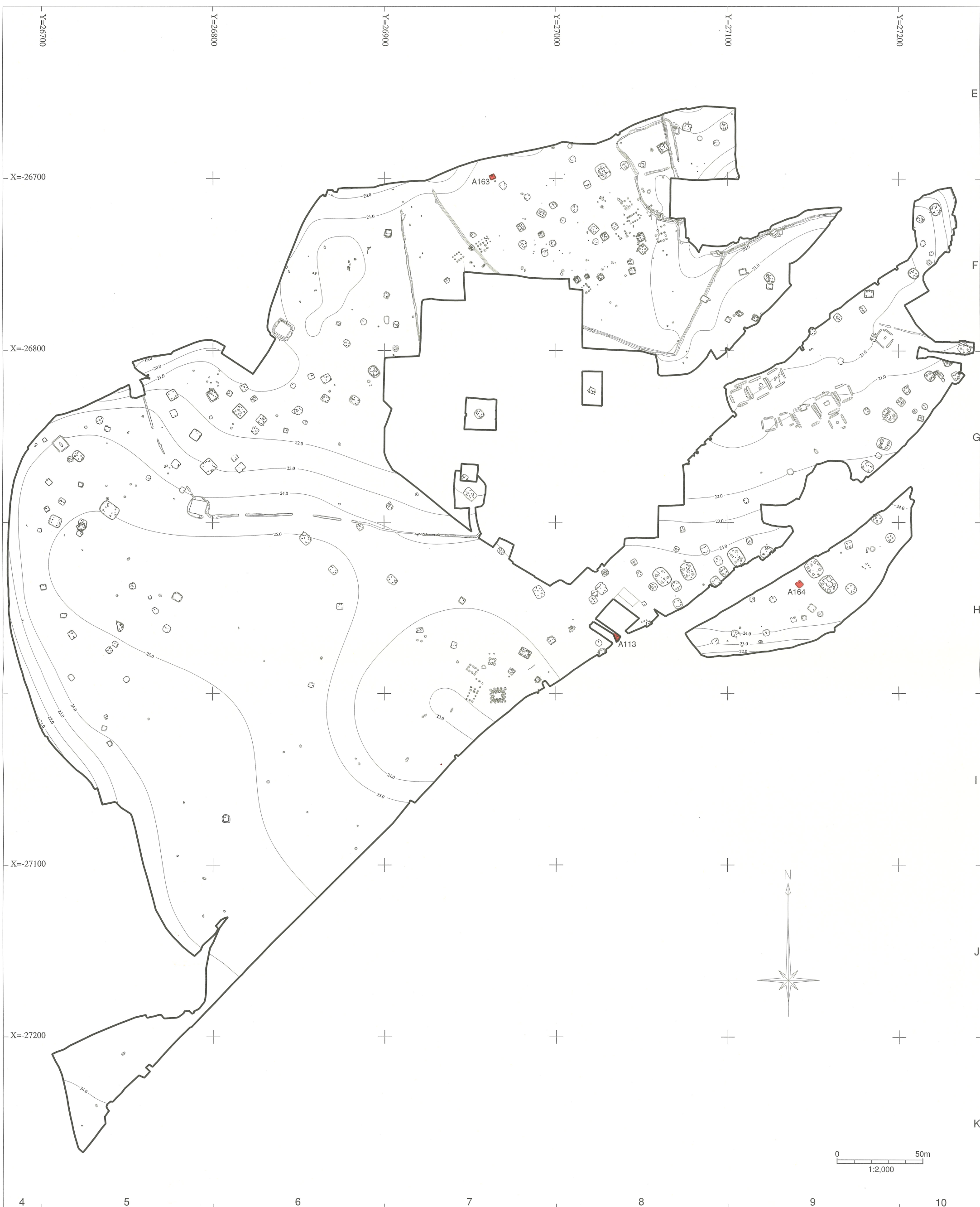


图6 古墳時代後期遺構配置図

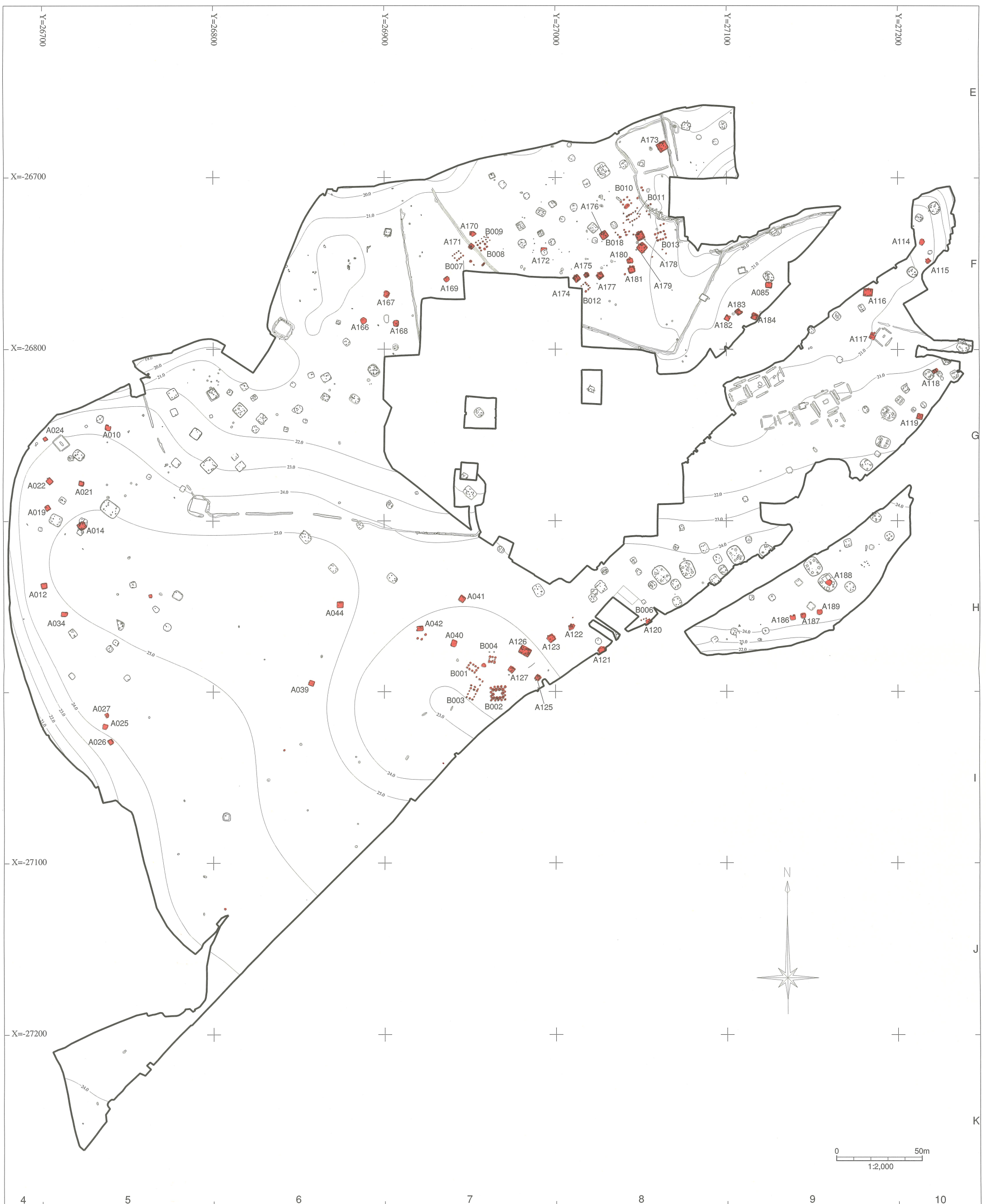


图7 奈良·平安时代遺構配置图

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよしくりやいせき(かしょう) やちよカルチャータウンかいはつじぎょうかんれんまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょI
書名	千葉県八千代市栗谷遺跡(仮称)八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書I
巻次	—第1分冊 本文編—
編集者名	宮澤 久史
編集機関	八千代市遺跡調査会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 (八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課内) TEL 047-483-1151
発行年月日	西暦2004年(平成16年)8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くりや 栗谷遺跡	やちよしほしなあざなかだいや 八千代市保品字中台谷1909-1他	12221	75	35度 45分 27秒	140度 7分 55秒	19880325～ 19880611 19880622～ 19881013 19880721～ 19890831 19890705～ 19901019 19910111～ 19911219 19910722～ 19920602 19920521～ 19921225 19930603～ 19930805 19930719～ 19930930 19931001～ 19940124 19931102～ 19940718	総面積 139,000㎡	大学建設 住宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
栗谷遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 3軒 土坑 13基 炉穴 22基	縄文土器、石器	
	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 16軒 方形周溝墓 3基 土坑 8基	弥生土器、石器	
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 14軒	土師器、ミニチュア土器、土錘	
	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡 16軒 掘立柱建物跡 1棟 土坑 11基	土師器、須恵器、鉄製品	
	包蔵地	中・近世以降	土坑 1基 溝 1条		

千葉県八千代市
栗谷遺跡

(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ
— 第1分冊 — 本文編

2004年8月31日発行

編集 八千代市遺跡調査会
千葉県八千代市大和田138-2
(八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課内)

発行 大成建設株式会社
東京都新宿区西新宿1-25-1
